

### 設置計画の概要

事項		記入欄												
事前相談事項		事前伺い												
計画の区分		研究科の専攻の設置												
フリガナ		コクリツダイガクホウジン オサカキョウイクダイガク												
設置者		国立大学法人 大阪教育大学												
フリガナ		オサカキョウイクダイガクダイガクイン												
大学の名称		大阪教育大学大学院 (The Graduate School of Osaka Kyoiku)												
新設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像		①学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての教員を養成する。 ②教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させる。 ③教員(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援・養護)												
既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像		①学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての教員を養成する。 ②教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させる。 ③教員(主に小学校・中学校・高等学校)												
新設学部等において取得可能な資格		<b>【連合教職実践研究科 高度教職開発専攻】</b> ・幼稚園・小学校・中学校(国語,社会,数学,理科,音楽,美術,保健体育,保健,技術,家庭,職業,職業指導,英語,フランス語,ドイツ語,中国語,宗教)・高校(国語,地理歴史,公民,数学,理科,音楽,美術,工芸,書道,保健体育,保健,看護,家庭,情報,農業,工業,商業,水産,福祉,商船,職業指導,英語,フランス語,ドイツ語,中国語,宗教)・養護 教員専修免許状 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで(入学時に有する一種免許状の免許種に応じ)取得可能 ・特別支援学校教員専修免許状 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 特別支援関連科目の履修が必要												
既設学部等において取得可能な資格		<b>【連合教職実践研究科 高度教職開発専攻】</b> ・幼稚園・小学校・中学校(国語,社会,数学,理科,音楽,美術,保健体育,保健,技術,家庭,英語)・高校(国語,地理歴史,公民,数学,理科,音楽,美術,工芸,書道,保健体育,保健,看護,家庭,情報,工業,英語) 教員専修免許状 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで(入学時に有する一種免許状の免許種に応じ)取得可能												
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員				
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授		
	連合教職実践研究科 [The United Graduate School of Professional Teacher Education]						高度教職開発専攻 [School of Advanced Professional Development in Education]	教職修士(専門職)					教員養成関係	教育学研究科 学校教育専攻
												教育学研究科 国語教育専攻	2	2
												教育学研究科 社会科教育専攻	2	2
												教育学研究科 数学教育専攻	2	1
												教育学研究科 理科教育専攻	2	2
												教育学研究科 英語教育専攻	2	0
												教育学研究科 家政教育専攻	1	1
												教育学研究科 音楽教育専攻	1	1
												教育学研究科 美術教育専攻	1	1
												教育学研究科 保健体育専攻	1	0
												教育学研究科 特別支援教育専攻	1	1
												教育学研究科 技術教育専攻	1	1
						教育学研究科 養護教育専攻	1	0						
						連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	13	11						
						教職教育研究センター	3	3						
						附属学校園	6	2						
						計	44	29						
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員				
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授		
	教育学研究科						学校教育専攻(廃止)	修士(教育学)					教育学・保育学	学校教育教員養成課程
												初等教育教員養成課程	3	1
												連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1
												計	17	7
												学校教育教員養成課程	5	5
												連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	2
												計	7	7
												学校教育教員養成課程	10	9
												連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	2
												計	12	11
												学校教育教員養成課程	5	3
												連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	1
						計	7	4						
						学校教育教員養成課程	11	5						
						連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	2						
						計	13	7						

部 等 の 概 要	英語教育専攻 (廃止)	2	6	-	12	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和43年	学校教育教員養成課程	3	3
									初等教育教員養成課程	1	0
									連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	0
									計	6	3
	家政教育専攻 (廃止)	2	5	-	10	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和49年	学校教育教員養成課程	6	3
									連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1
									計	7	4
	音楽教育専攻 (廃止)	2	11	-	22	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和50年	学校教育教員養成課程	5	3
									連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1
								初等教育教員養成課程	1	0	
								計	7	4	
美術教育専攻 (廃止)	2	10	-	20	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和50年	学校教育教員養成課程	6	1	
								連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1	
								計	7	2	
保健体育専攻 (廃止)	2	10	-	20	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和50年	学校教育教員養成課程	7	4	
								連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	0	
								計	8	4	
特別支援教育専攻 (廃止)	2	10	-	20	修士(教育学)	教育学・保育学	昭和51年	学校教育教員養成課程	9	5	
								連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1	
								計	10	6	
技術教育専攻 (廃止)	2	3	-	6	修士(教育学)	教育学・保育学	平成5年	学校教育教員養成課程	4	2	
								連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	1	
								計	5	3	
養護教育専攻 (廃止)	2	3	-	6	修士(教育学)	教育学・保育学	平成14年	学校教育教員養成課程	6	3	
								連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	1	0	
								計	7	3	
実践学校教育専攻 (廃止)	2	15	-	30	修士(教育学)	教育学・保育学	平成8年	学校教育教員養成課程	1	0	
								初等教育教員養成課程	13	7	
								計	14	7	

【備考欄】

[同一設置者内における変更状況]

教育学研究科

- 学校教育専攻(廃止) (△15)
- 国語教育専攻(廃止) (△6)
- 社会科教育専攻(廃止) (△15)
- 数学教育専攻(廃止) (△7)
- 理科教育専攻(廃止) (△14)
- 英語教育専攻(廃止) (△6)
- 家政教育専攻(廃止) (△5)
- 音楽教育専攻(廃止) (△11)
- 美術教育専攻(廃止) (△10)
- 保健体育専攻(廃止) (△10)
- 特別支援教育専攻(廃止) (△10)
- 技術教育専攻(廃止) (△3)
- 養護教育専攻(廃止) (△3)
- 実践学校教育専攻(廃止) (△15)

[教育方法の特例] 大学院設置基準第14条特例を実施する。

## 【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：2,409 ㎡ 借用期間：1年 (毎年更新)	
	校 舎 敷 地	運 動 場 用 地	229,161 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	229,161 ㎡		
	小 計		336,884 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	336,884 ㎡		
	そ の 他		381,206 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	381,206 ㎡		
	合 計		718,090 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	718,090 ㎡		
校 舎			専 用 78,472 ㎡ (78,472 ㎡)	共 用 0 ㎡ ( 0 ㎡)	共用する他の 学校等の専用 0 ㎡ ( 0 ㎡)	計 78,472 ㎡ (78,472 ㎡)	大学全体	
教 室 等	講義室	演習室	118 室	46 室	111 室	9 室 (補助職員 人)	語学学習施設 4 室 (補助職員 人)	大学全体
	専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 連合教職実践研究科 高度教職開発専攻		室 数 41室(共同利用3室含む)			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 766,000 〔126,150〕 電子ブック 14,914 〔13,838〕 学術雑誌 18,000 〔3,064〕 電子ジャーナル 左記記載数値が大学全 体の総数 視聴覚資料 10,640
	連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	175,700 [50,900] (171,900 [50,300])	2,079 [751] (2,079 [751])	5,504 [5,503] (5,504 [5,503])	6,980 (6,660)	0 (0)	0 (0)	
	計	175,700 [50,900] (171,900 [50,300])	2,079 [751] (2,079 [751])	5,504 [5,503] (5,504 [5,503])	6,980 (6,660)	0 (0)	0 (0)	
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		8,335 ㎡		855	1,500,772			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				
		7,629 ㎡		野 球 場 テニスコート (オムニ8面、クレール7面)				

## 【既設学部等の状況】

大 学 の 名 称	国立大学法人 大阪教育大学							所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率		開 設 年 度
		年	人	年次 人	人		倍		大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1号  (※の課程及び専攻) 大阪市天王寺区南河堀町4番88号
既 設 大 学 等 の 状 況	教育学部								
	初等教育教員養成課程 (昼間)	4	60	—	120	学士 (教育学)	100.83	平成29年度	※
	初等教育教員養成課程 (夜間)	5	40	—	80	学士 (教育学)	102.5	平成29年度	※
	学校教育教員養成課程	4	420	—	1,630	学士 (教育学)	104.98	平成22年度	平成29年度入学定員増 (25)
	養護教諭養成課程	4	30	—	120	学士 (教育学)	95.83	昭和51年度	
	教育協働学科	4	350	—	700	学士 (教育学)	102.42	平成29年度	
	幼稚園教員養成課程	—	—	—	—	—	—	—	平成29年度より学生募集停止
	特別支援教育教員養成課程	—	—	—	—	—	—	—	平成29年度より学生募集停止
	教養学科	—	—	—	—	—	—	—	平成29年度より学生募集停止
	第二部小学校教員養成課程	—	—	—	—	—	—	—	※ 平成29年度より学生募集停止
	第二部小学校教員養成課程 [3年次編入]	—	—	—	—	—	—	—	※ 平成31年度より学生募集停止
	教育学研究科								
	学校教育専攻	2	15	—	30	修士 (教育学)	99.99	昭和43年度	
	国語教育専攻	2	6	—	12	修士 (教育学)	58.33	昭和43年度	
	社会科教育専攻	2	15	—	30	修士 (教育学)	93.33	昭和43年度	
	数学教育専攻	2	7	—	14	修士 (教育学)	57.14	昭和43年度	
	理科教育専攻	2	14	—	28	修士 (教育学)	64.28	昭和43年度	
英語教育専攻	2	6	—	12	修士 (教育学)	183.33	昭和43年度		
家政教育専攻	2	5	—	10	修士 (教育学)	70	昭和49年度		
音楽教育専攻	2	11	—	22	修士 (教育学)	77.26	昭和50年度		
美術教育専攻	2	10	—	20	修士 (教育学)	55	昭和50年度		
保健体育専攻	2	10	—	20	修士 (教育学)	115	昭和50年度		
特別支援教育専攻	2	10	—	20	修士 (教育学)	100	昭和51年度		
技術教育専攻	2	3	—	6	修士 (教育学)	116.66	平成5年度		

養護教育専攻	2	3	—	6	修士（教育学）	66.66	平成14年度	
実践学校教育専攻	2	15	—	30	修士（教育学）	79.99	平成8年度	※
健康科学専攻	2	21	—	42	修士（学術）	116.66	平成5年度	※
総合基礎科学専攻	2	16	—	32	修士（学術）	71.87	平成5年度	
国際文化専攻	2	12	—	24	修士（学術）	58.33	平成6年度	
芸術文化専攻	2	12	—	24	修士（芸術）	120.83	平成7年度	
連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2	30	—	60	教職修士（専門職）	118.33	平成27年度	※
附属施設の概要	附属学校・別紙のとおり							

様式第2号（その1の1）別紙 附属施設の概要

（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科高度教職開発専攻）

名称	目的	所在地	設置年月	規模等		
				土地	建物	
附属天王寺小学校	<p>教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、それぞれ学校教育を行う、学部・大学院等における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究教育に協力し、学生の教育実習の実施に当たる。</p>	大阪府大阪市阿倍野区松崎町1-2-45	昭和26年4月	11,735㎡	6,086㎡	
附属池田小学校		大阪府池田市緑丘1-5-1	昭和26年4月	25,464㎡	8,813㎡	
附属平野小学校		大阪府大阪市平野区流町1-6-41	昭和26年4月	28,028㎡	6,346㎡	
附属天王寺中学校		大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88	昭和26年4月	(天王寺キャンパスを含む)	12,492㎡	
附属高等学校（天王寺校舎）			昭和31年4月			
附属池田中学校		大阪府池田市緑丘1-5-1	昭和26年4月	昭和31年4月	53,101㎡	14,466㎡
附属高等学校（池田校舎）						
附属幼稚園		大阪府大阪市平野区流町2-1-24	昭和26年4月	昭和26年4月	31,938㎡	1,816㎡
附属平野中学校			昭和26年4月	昭和26年4月		
附属高等学校（平野校舎）			昭和47年4月	昭和47年4月		
附属特別支援学校	大阪府大阪市平野区喜連4-8-71	昭和41年4月	昭和41年4月	10,357㎡	3,574㎡	

### 教育課程等の概要 (事前伺い)

(連合教職実践研究科 高度教職開発専攻 (教職大学院))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	1前	2	-	-	-	○	-	3	1	0	0	0	-	共同
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	-	共同
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	1前	2	-	-	-	○	-	3	2	0	0	0	兼1	共同
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	兼1	共同
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2	-	-	-	○	-	1	2	0	0	0	-	共同
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教師力と学校力	2後	2	-	-	-	○	-	6	3	0	0	0	-	共同
	現代的教育科目	教育研究方法演習	1後	2	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	兼4	共同
		学校安全と危機管理	2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼5	オムニバス・共同
		人権教育の課題と実践	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼2	共同
		健康教育の理解と実践	休	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス
子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践		1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同	
社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究		2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
	特別ニーズ教育の理論と実践	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼9	オムニバス	
	小計 (13科目)	-	16	10	0	-	-	-	14	6	1	0	0	兼25	-	
学校実習科目	基本学校実習 I	1前	-	2	-	-	-	○	28	13	2	0	0	兼83		
	基本学校実習 II	1後	-	2	-	-	-	○	28	13	2	0	0	兼83		
	基本学校実習 III (特別支援)	1前	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8		
	基本学校実習 IV (特別支援)	1後	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8		
	発展課題実習 I	2前	-	3	-	-	-	○	28	13	2	0	0	兼83		
	発展課題実習 II	2後	-	3	-	-	-	○	28	13	2	0	0	兼83		
	発展課題実習 III (特別支援)	2前	-	3	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8		
	発展課題実習 IV (特別支援)	2後	-	3	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8		
	小計 (8科目)	-	0	20	0	-	-	-	29	13	2	0	0	兼91	-	
スクーリーダーシッププログラムコース科目	コース共通科目	スクーリーダーシップの理論と実践	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		エビデンスベースの学校改革	2前	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同
	管理職プログラム	スクーリーダーのマネジメント	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		学校組織開発	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	実践的リーダープログラム	チーム学校の実践的展開	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		学校におけるコーディネーション	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
	教育委員会指導主事プログラム	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		校内研修の持続的発展	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	グローバルスクールプログラム	学校に対するコンサルテーション	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		行政研修の体系と実践	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	メディア・情報リテラシー教育プログラム	学校支援のための施策展開	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		グローバル時代の教師	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		グローバルリテラシーの育成	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	グローバルプログラムの開発	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
	授業におけるICT活用の理論と実際	1前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
	メディア・情報教育の企画・運営	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
	小計 (17科目)	-	0	34	0	-	-	-	8	2	0	0	0	-		
援助ニーズ教育実践コース科目	コース共通科目	協働的援助の理論と実践	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		社会環境と子どもの心身の理解	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	兼2	オムニバス・共同
		児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	1前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	兼2	オムニバス
	いじめ・不登校・問題行動対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス
		学校危機における援助ニーズ	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	子どもの障がい・健康課題対応プログラム	予防的な関わりと協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
		障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	1	0	0	兼1	オムニバス・共同
	養護プログラム	メンタルヘルス課題の理解	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
		共生社会をめざした協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	兼2	オムニバス
		養護実践の理論と方法	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	-	
	子どもの疾病・傷害と援助ニーズ	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス	
	子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	兼1	オムニバス	



C群	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [英文法・英作文]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [小学校英語]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [リスニング・リーディング]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食育]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食と健康]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [家族と保育]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [被服と生活]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [消費生活と環境]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	兼2
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [いのち教育]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [哲学]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [倫理]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [社会学a]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [社会学b]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [法と社会]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [歴史]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [防災安全]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [地誌]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [地図]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳a]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳b]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [物理]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [化学]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [生物]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [地学]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [木材加工]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [金属加工]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [電気]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [情報]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [栽培]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [技術統合]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	兼4
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [代数]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [幾何]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [解析]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [確率]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [応用数学]	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [数学教育]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) A [作曲]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) A [指揮]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [美術鑑賞]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [書鑑賞]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流1]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流2]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼2
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [映像・メディア教育]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [剣道]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [柔道]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [球技]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	0	-	
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [器械運動]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [保健学習]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [健康・体力]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [体育基礎論]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
高度理数教育科目	教科内容研究 (科学と数学) A [実験物理]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [有機化学]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [植物進化]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [動物系統]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [動物発生]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [気象]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [天文]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) A [地質]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) B [木材加工]	1・2	-	-	1	-	○	-	1	0	0	0	0	0	0	-
	教科内容研究 (科学と数学) B [金属加工]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) B [電気]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究 (科学と数学) B [情報]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1
教科内容研究 (科学と数学) B [栽培]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	

オムニバス

共同

オムニバス

	教科内容研究 (科学と数学) C [代数]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [幾何]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [解析]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [確率]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [応用数学]	1・2	-	-	1	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	教科内容研究 (科学と数学) C [数学教育]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	小計 (104科目)	-	0	113	19	-	-	-	11	4	0	0	0	0	兼66	-
特別支援教育コース科目	インクルーシブ教育の理論と実際	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼3	共同
	特別支援教育コーディネーター論	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼3	オムニバス
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別なニーズのある子どもの臨床	2後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達障がいのある子どもの理解と支援	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別支援教育の現代的課題	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼9	オムニバス
	発達支援教育実践論	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別支援教育の教育課程と授業論	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼4	共同
	教育相談支援の理論と実際	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	小計 (10科目)	-	0	20	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	兼9	-
課題研究科目	実践課題研究 I	2前	2	-	-	-	○	-	29	13	2	0	0	0	兼91	
	実践課題研究 II	2後	2	-	-	-	○	-	29	13	2	0	0	0	兼91	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	-	-	-	29	13	2	0	0	0	兼91	-
合計 (192科目)		-	20	273	19	-	-	-	29	13	2	0	0	0	兼109	-
学位又は称号		教職修士 (専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係								

## I 設置の趣旨・必要性

### 【修士課程から教職大学院への移行の背景・必要性】

#### 〈現状〉

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科高度教職開発専攻（以下「本教職大学院」という。）は、これまで取り組んできた大阪教育大学大学院教育学研究科（修士課程・教員養成課程を基礎に置く専攻）（以下「既存大学院」という。）における教員養成・現職教育の成果を踏まえながら、学校をめぐる社会的状況の変化に伴う学校教育への多様なニーズに応えるため、これまで教員養成の重要な役割を果たしてきた関西大学並びに近畿大学との連携により、平成27年4月に入学定員30名の規模で開設した。

本教職大学院は、地元の教育委員会からの要望を反映させた授業科目を開設するとともに、教職に関わる理論と実践を結ぶための学校実習科目を教育課程の中心に置き、大学内での学習においても、学習者に理論と実践の主体的な接続を促すアクティブラーニング（事例研究、グループワーク、ワークショップ等）を導入することで、教員が有すべき理論を実践的指導力（応用力）に変えることのできる力を育むための教育研究を推進している。

本学大学院修士課程は、昭和43年の創設以来、現在教員養成系13専攻（昼間）と夜間1専攻の14専攻に加え教養学科系4専攻、合計18専攻入学定員191名を擁する日本有数の大規模教育学研究科である。この大学院では、学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って高い学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力及び教育実践における教育研究の推進者としての能力を養成することを目指している。この理念のもとに、これまで教育界に多くの優秀な教員を輩出してきた。

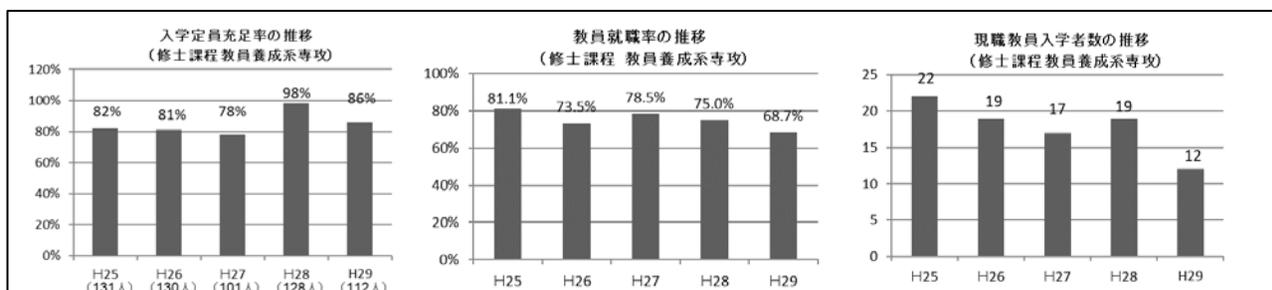
#### 〈課題〉

本教職大学院は、大阪における唯一の教職大学院の設置であったが、設置計画時は全国的に教職大学院のニーズや知名度が大きなものではなく、また、個別分野の学問的知識への偏りが指摘されてきた既存の教員養成系修士課程の教科教育専攻の教育課程と変わらなくなる恐れがあることなどから、各教科ごとに区分したコースや個別の教科内容を中心とした履修モデルを設けることは適切ではないとされていたため、個別の教科内容を中心とした履修モデルを導入することなく入学定員30名という比較的小規模でのスタートせざるを得なかった。

一方、既設大学院は、平成27年4月に連合による教職大学院設置を契機に、より実践性を高めるためのカリキュラム内容に変更したにも関わらず、直近の定員充足状況や教員採用率、大学院で学ぶ現職教員数の推移を含め教員養成系大学院として学校教育現場及び学生ニーズに合致しているとは言いきれない状況（下図参照）が続いている。

既設大学院の枠組みは、学校教育や教科内容に関する専門性を高めるための能力の養成を中心に構築されてきた。その結果、各研究領域の専門性に則した授業内容が多かったこと、指導方法も講義・演習・実験で構成されており実習は導入されていなかったこと、教職経験者が授業を担当している割合が低かったこと等の点において、実践的指導力に重点を置いた教育課程が編成できておらず、学校現場が抱える課題に充分に対応できているとは言い難い状況である。

また、大学と地元教育委員会との連携関係において、教員個々や特別なプロジェクトで教育委員会の一部門との繋がりに依存する側面があった従来の形態に鑑みれば、学校教育現場のニーズを大学全体の教育課程において十分に反映し得る両者の組織的な連携関係の組成が急務である。このことは、地元教育委員会から既設大学院へ現職教員学生として派遣される数が極めて少ない状況にも表れている。



〈必要性〉

知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、我が国の社会は大きく変化する中で、様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が不可欠であり、人材育成の中核を担うべき学校教育においては、直接の担い手である教員の資質能力を向上させることが最も重要である。このような観点から、平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」において、教員の資質能力の高度化に関する改革の具体的方向性が示された。

その具体的な方向性の中で、今後の教職大学院は、質的な面のみならず、量的な面でも大学院段階での教員養成の軸として捉え、特に教科教育について、教育実践的要素を取り入れた教科指導力の向上を目指すコースの整備などにより、従来国立の教員養成系修士課程で受け入れていた学生の受皿となるような仕組みの構築も必要である旨述べられている。

また、同答申では、教職大学院は大学と教育委員会・学校との連携・協働のハブとなるとともに、学校現場を基軸とした教育課程の編成を行い、地域性を踏まえ、各教職大学院の強み・特色を示す必要がある旨も指摘している。

本学が、平成28年9月に行った大阪府下国公私立の小学校・中学校・高等学校管理職を対象としたアンケート調査によると、所属教員に今後さらに身に付けて欲しい力として、約70%の管理職が高度な教科指導力を求めており、また、大学院卒の新任教員が教職に就くまでに身に付けて欲しい能力も約50%の管理職が高度な教科指導力を希望している。ともに身に付けて欲しい能力として最上位であった。反面、教科専門の高度な知識は、それぞれ約13%と約22%という結果であり管理職からの要求は低い。また、地域の特性から子どもの発達段階や多様性に関する知識についても、それぞれ約41%と約35%と高い関心と要望が示された。

〈学校管理職対象アンケート調査結果(抜粋)〉

Q. 貴校所属教員に、今後さらに身に付けてほしい力は何ですか。[特に、と思うものを最大3つまで選択可]

身に付けてほしい力	回答率
高度な教科指導力	69.5%
高度な学級運営力	48.4%
子どもの発達段階や多様性に関する知識	40.9%
高度な実践力	33.4%
課題解決力	27.7%
ICT活用力	25.1%
協働力	20.7%
特別支援の方法に関する知識	19.3%
安全教育や危機管理の知識	16.4%
教科専門の高度な知識	13.3%
企画・開発力	12.7%
学外組織との連携を推進できる力	12.1%
学校運営の知識	10.1%
統率力	2.9%
教育政策に関する知識	2.9%
その他	2.0%

Q. 大学院卒の新任教員が就職するまでに必ず身につけておいてほしい能力は何ですか。[特に、と思うものを最大3つまで選択可]

身に付けてほしい力	回答率
高度な教科指導力	49.3%
子どもの発達段階や多様性に関する知識	34.6%
協働力	29.7%
高度な学級運営力	29.4%
高度な実践力	28.2%
課題解決力	25.9%
教科専門の高度な知識	21.9%
企画・開発力	16.4%
ICT活用力	11.5%
学校運営の知識	10.1%
特別支援の方法に関する知識	9.2%
学外組織との連携を推進できる力	8.1%
統率力	4.6%
安全教育や危機管理の知識	4.6%
教育政策に関する知識	4.0%
その他	3.7%

※調査概要：大阪府下の小学校・中学校・高等学校全1786校を対象とした質問紙郵送調査法による調査。回収数347校。2016年9～10月実施。

〈現状〉と〈課題〉で述べたように現行の本学大学院は、教職大学院は現代的教育課題への対応や実践的指導力の育成、既設大学院は教科内容に関する専門性を高めるための能力育成と、本来同時並行的に学ばなければならない教育課程が2分割され、違う研究科として、これまで教育研究活動を進めてきた。

このような状況を打破し、学校教育現場が真に必要なとする教育人材の輩出を主な目的に大阪教育大学は既設大学院と教職大学院を一体的な大学院に改組するための大幅な改革を決断し、都市圏における地元教育委員会との実質的な連携関係を深化させるとともに、既存大学院は教科領域も学べる教職大学院へと全面的に移行させる。

本学は、今回の大学院改組に先駆けて平成29年4月に学部改組を実施した。大学全体の改革コンセプトとして「我が国の教員養成全体のニーズや課題を主体的に受け止めるとともに、先導的・創造的な教育研究活動を行うため、教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能強化」を掲げている。

すなわち、学校教育を学校内に閉じず家庭や地域社会とともに子供たちを育てていくという視点に立てる人材養成を目ざしている。そのため、学士課程においては教育協働学科を新設し、学校教員と協働し教育環境を発展・充実させる人材を養成する改革を行った。キャンパス内では教員を志す教員養成の学生と協働（コラボレーション）を実現するための授業や協働による教育実習を実現するためのカリキュラムや仕組みを用意している。

つまり、一つの領域（考え方）に偏ることなく、例えば「教科×教職」「教科×他教科」「学校×行政」「教員×家庭」「教員×心理士」「学校×企業」「大学×教育委員会」など「組み合わせる」ことの重要性を理解し、すなわち総合的・横断的に他領域も含め学習することで、他者との協働力や課題解決力などを育み、創造的な思考力を獲得できる人材養成を柱に据えた改革をスタートさせた。

大学院改革においても、「組み合わせる」ことを念頭に、各教科ごとの専攻による既存大学院の教育課程を改め、各学問の再構成と学問間の調整・統合を実現するカリキュラムを導入し、学校現場で必要とされる教科領域の教育研究を追求するとともに、一人ひとりの子どもの中に絡み合って複合的に存在する、多様な援助ニーズへの対応のため教育学や心理学、福祉・医療等分野にまたがるクロスカリキュラムなどを導入し、学校現場において真に必要とされる教育の総体を探求する大学院に生まれ変わる。教職大学院の教科教育法を専門とする教員が、教職大学院を担当する意欲・能力のある既存修士課程の教科専門の教員とも協力して、教職大学院の教科カリキュラムを展開する。

大阪教育大学大学院は、地元教育委員会との実質的な連携関係に基づく教員の生涯学習を支え、知の拠点としての機能を充実・発展させるとともに、教員養成単科大学でしか為し得ない「組み合わせる」思考を探求し、学校教育に必要なとなる理論を実践に変える力を育み、将来にわたって学校教育の発展・充実に寄与していく。

#### <地元教育委員会との連携による教員の育成>

本教職大学院の設置目的は、現職教員学生に対しては、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすための確かな指導理論と高度で優れた実践力・応用力を備えた中核的中堅教員として活動する力を養成すること。学部卒業生に対しては、実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取組み、将来的に学校や地域の教育を牽引できる教員として協働する力を養成することとしており、この両者に共通して目指す人材像のコンセプトとして、「自ら学び続けるとともに他者との連携を深めて組織をリードできる教員」であるとともに、「学校の教育課題に関連する自らの強みを生かして組織で協働できる教員」となることとしている。

既設大学院から教職大学院への全面的な移行に際しては、当該目的を継承しつつ、刻々と変化する教育現場からのニーズに対応するため地元教育委員会が設置する教員育成協議会への積極的な参画や教育委員会関係者等と大学関係者からなる教職大学院連携会議等での議論に加え、地元教育委員会からの出資による共同研究講座を教職大学院内に設置し、実質的な連携関係を構築しその対応に当たっていく。具体的には、指導力向上に向けた共同研究、研修プログラムの開発・実施、課題のある学校に学校支援等の取組を共同研究講座所属教員と高度教職開発講座所属教員が協働で開発・実施し、教職大学院のカリキュラムに反映させていく仕組みを導入する。

協働で開発・実施する教職大学院開講科目は、教育委員会の研修プログラムとして位置付けられるとともに、教職大学院での単位認定を行い、現職教員の教職大学院進学への動機付けに繋げる。

#### <コース及びプログラムの設置>

本教職大学院は、新たに先述のように学校現場で必要とされる教科領域の教育研究を追求するとともに、一人ひとりの子どもの中に絡み合って複合的に存在する、多様な援助ニーズへの対応を図るため地元教育委員会の協力を得ながら現3コース入学定員30人から次の4コース入学定員150人の教職大学院へリスタートする。

また、主に現職教員向けのスクールリーダーシップコースと援助ニーズ教育実践コースでは、3科目6単位からなる現場ニーズに沿いながら具体的教育課題に対応したプログラムを用意し、主に、総論的、展開的・事例的、実践的という異なる性格の科目で構成する。大学院修了時にはプログラムで得た資質能力証明を修了証書に付記するとともに、将来的には大学院に就学が困難な現職教員に対して単位認定を伴った履修プログラムへの発展を意図する。

コース	主な修学 キャンパス 及びコース 入学定員の 目安	対象	プログラム
スクールリーダーシップコース	天王寺 キャンパス 30	現職教員等	管理職プログラム 実践的リーダープログラム 教育委員会指導主事プログラム グローバルスクールプログラム メディア・情報リテラシー教育プログラム
援助ニーズ教育実践コース	天王寺 キャンパス 30	現職教員等及び学部卒学生 等一種免許状取得者	いじめ・不登校・問題行動対応プログラム 子どもの障がい・健康課題対応プログラム 養護プログラム 就学前教育プログラム
教育実践力コース	柏原 キャンパス 80	現職教員等及び学部卒学生 等一種免許状取得者	
特別支援教育コース	柏原 キャンパス 10	現職教員等及び学部卒学生 等一種免許状取得者	

#### (a) スクールリーダーシップコースの人材像

大阪府教育庁、大阪市教育委員会、堺市教育委員会との協議の中で、教員の年齢構成に大きな偏りが生じており、特に、30代後半から40代の中堅教員の層が非常に薄く、近々、管理職の不足が非常に深刻な問題として現れることが指摘されている。また、各学校や教育研究会、教育センター等において、教員研修を企画運営する立場にある人材に対して、質の高い教員研修を提供する必要性が指摘されている。

そこで、本コースでは、一定の経験を持つ現職教員を対象とし、教員集団をリードし、保護者、地域住民等と協働して、学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる優れたリーダーシップを発揮できる教員を養成する。そのため、一定の経験を持つ現職教員に、これまでの教職経験で培った実践的知見と先進的な教育研究に基づく理論的な知見を統合させ、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を体得させる。

#### (b) 援助ニーズ教育実践コースの人材像

大阪の学校では、発達障がい、低学力、いじめ、不登校、子どもの貧困、児童虐待、医療的ケア、校種間不適応、多文化共生など多様で重大な課題を抱えている。また、これらの援助ニーズは、就学前段階から課題となっている。

そこで、本コースでは、現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を探究させ、「チーム学校」の考えに基づく学校内・外の関係者と協働して展開できる教員を養成する。そのため、子どもを取り巻く多様な援助ニーズに対して、協働的に援助する実践力を備えるとともに、現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題の視点から、社会環境と個人の関係性を考慮した援助ニーズを理解させる。なお、養護教育や就学前支援のプログラムでは専門性に特化した実践力を育成する。

#### (c) 教育実践力コースの人材像

大阪の教育では、多様な児童・生徒の実態に基づいた教育課程及び授業の構想力・展開力・省察力に加えて、特にICT化、あるいは特別支援に関する理解を深めた教員の養成が必要とされている。一方、従来の修士課程では十分に取組みなかった、学校現場での実習や実際の教育実践を題材とした「理論と実践の往還」を取り入れた教科領域の教育の導入が求められている。

そこで、本コースでは、現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成する。そのため、カリキュラム・マネジメントの理解を起点として、教科を統合する力を身に付けるとともに、教科領域の確実な学習指導と評価に加え、授業単元・カリキュラム設計とその評価・改善ができる能力を獲得させる。また、ICTの先進的活用、アクティブラーニングなど効果的な授業形態の導入、パフォーマンス課題の設定とルーブリック評価の適切な活用など、教科領域を含む教育実践力を総合的に育成する。

#### (d) 特別支援教育コースの人材像

本コースでは、現職教員等や学部卒学生等特別支援学校教諭一種免許状取得者を対象とし、特別支援教育の対象となる子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身につけ、また特別支援コーディネー

ターとしての役割を担うことのできる教員を養成する。そのため、インクルーシブ教育構築の観点から、特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校ならびに各種施設における特別なニーズのある子どもたちの能力や個性に応じた専門的な教育支援を追求することによって、特別支援教育における指導的教育者、特別支援教育コーディネーター等となるのに必要な洞察力・実践力を育成する。

## II 教育課程編成の考え方・特色

### 1. 教育課程の概要

次期学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力について、これまでの「生きる力」を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」の三つの柱に沿って具体化し、「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」までを見据えて学習指導要領の枠組みを再構成している。この中で特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアクティブ・ラーニングの視点、「社会に開かれた教育課程」を編成するためのカリキュラムマネジメントの視点が強調されている。

本教職大学院は、先述の人材養成像に加え次期学習指導要領を見据えながら教育課程を編成し、新しい学校づくりを担う高度の専門的職業人たる教員の養成を目的としてデザインされている。

本教職大学院の教育課程は、大きく次の4つの部分から成り立っている。

①本教育課程の基礎をなし包括的・体系的な視点を養うために全てのコースの学生が共通に履修する5領域を網羅しつつ現代的教科科目群で構成した「研究科共通科目」を設定する。

②「学校実習科目」は、社会に開かれた教育課程を意図し、学校現場だけの実習に留まらず「海外実習」や「適応指導教室」、「他地域実習」等を実施するとともに、1年次と2年時に十分な実習時間を確保するための時間割としている。

③学生の属性ごとに各コースの目的に合わせて、その特徴を伸ばすために設定された「コース科目」を1年次と2年次に設ける。

④「研究科共通科目」、「学校実習科目」、「コース科目」における2年間の実践的研究を統合して、自らの課題意識を深めつつ、課題解決力の形成を図るための「課題研究科目」を2年次に設定する。

また、理論と実践を融合するため、天王寺キャンパスで夜間開講するスクールリーダーシップコースと援助ニーズ教育実践コースは2学期（セメスター）制とし、柏原キャンパスで昼間開講する教育実践力コースと特別支援教育コースは2学期4ターム制とする。

#### <2年間を通じた理論と実践の融合>

教職の理論的な基礎を構成する研究科共通科目のうち5領域の基礎的科目と各コース共通科目のうち基礎となる科目については、第1セメスターまたは第1タームではほぼ全ての学生が履修できるよう設計する。その上で研究科共通科目の現代的教科科目やコース共通科目・コース科目を第2セメスターまたは第3ターム以降にバランス良く配置する。研究科共通科目やコース共通科目では、原則として研究者教員と実務家教員がペアで担当することとし、理論と実践をつなぐ複数の視点による授業を用意している。また、様々なアクティブラーニングや現場での体験を含めた授業方法も設定し、カリキュラム全体で理論と実践の融合の観点を通底させている。

さらに、学校実習科目については、主に現職教員を対象としたスクールリーダーシップコースと援助ニーズ教育実践コースでは1年次から2年次に渡るすべてのセメスターに配置するとともに、現職教員学生に配慮したフレキシブルな実習期間とする。教育実践力コースと特別支援教育コースでは、十分な学校実習時間を確保するため、タームごとに大学での講義あるいは学校実習を定めながら時間割を構成する。全てのコースにおいて、研究科共通科目やコース科目などにおける理論的な学びを、学校実習科目における実践的な学びと往還させながら進められるようにし、その上で課題研究を展開できるようにしている。

### 2. 教育課程と授業科目の特色

本研究科のカリキュラムは、研究科共通科目、学校実習科目、コース科目、課題研究科目の4カテゴリーで構成し、課程の修了に必要な単位数を次表のとおり各コースとも46単位とする。各科目と特色は次のようになる。

研究科共通科目	学校実習科目	課題研究科目	コース科目	計
18	10	4	14	46

(a) 研究科共通科目

現職教員学生及び学部卒学生など、全ての学生が共通に履修する共通科目として、「教育課程の編成及び実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導及び教育相談に関する領域」、「学級経営及び学校経営に関する領域」、「学校教育と教員の在り方に関する領域」の5領域の科目及び指定科目を設定し、これらから必修及び選択を合わせて18単位を修得する。

5領域に加える指定の必修科目としては、学校現場における実践的課題を解決する研究開発力養成の基礎となる科目としての「教育研究方法演習（2単位）」と、本学ならではの学校安全に関わる「学校安全と危機管理（2単位）」を設定している。

(b) 学校実習科目

学校実習科目は、「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ（各3単位）」（特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ〔特別支援〕（各2単位）」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ〔特別支援〕（各3単位）」）の計4科目10単位を修得する。発展課題実習Ⅱにおいては、院生にできるだけ様々な教育環境を経験することで教育現場での社会に開かれた教育課程を体現してもらうことを主眼とした内容の選択プログラムを設けている。

2年間の学校実習を通じて、激しく変化する教育環境に対応し、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立することをねらいとしている。大学内での講義や演習等で得られた知識を、自らの実践を振り返ることで相対化し、さらに伸ばすべき自らの資質能力の育成を、生涯にわたる職能成長の視点で計画する機会とする。教職大学院の実習は、学部段階の実習とは本質的に異なり、院生自身が研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画して実施する実習であり、理論と実践の往還を実感し、理論を媒体に教育実践を実践知に変換する資質能力を得ると同時に課題解決に資する能力の育成を目指す。

学校実習科目は、連携協力校の設定する教育研究テーマや課題と教職大学院生の学修計画とのマッチングを図りながら、適切な実習形態を選択し、教員免許状を取得している学生が実習先の連携協力校の教員と教職大学院担当教員の指導を受ける形で実施される。教職大学院担当教員については、専任教員44名の他、教員養成系兼任教員81名による全学的協力体制のもと、学生1人につき原則として主担当教員と副担当教員の2人で指導にあたる。この主担当教員及び副担当教員は、「研究者教員×実務家教員」を基本としつつ、教職専門担当教員、教科教育担当教員、教科専門担当教員、などの組み合わせを含め、各学生が理論と実践にわたる多様な視点で学校実習科目における課題に取り組むことができるよう配慮している。

学校実習のフィールドについては、現職教員学生は原則、原籍校で行うとともに、現職教員学生の原籍校を学部卒学生が実習を行う連携協力校として位置付けることとしている。学部卒学生90名の実習受け入れ先として、現職教員学生の原籍校（約55校想定）に加え、連合大学の附属学校も含めた、計120校程度の連携協力校を確保している。さらに、学生の課題研究に関するニーズ等により実習校が必要となった場合は、その対応として、教育課程の編成及び実施に関する大阪府下の教育委員会と本学との確認書に基づき、新たな連携協力校の確保に対する協力体制を整えている。

なお、現職教員学生については、学校実習の到達目標を定めただうえで、教職経験等との相関性や免除の妥当性を検討し、学校実習の全部もしくは一部を免除する仕組みを新たに導入する。

(c) コース科目

[スクールリーダーシップコース]

本コースのコース科目は、コース共通科目とプログラム科目で構成されている。前者は、「学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる、すぐれたリーダーシップを発揮できる」というコースの「養成する人材像」に対して、その基本的な考え方や取り組み方を受講する大学院生に獲得させるためのものである。その教育方法としては事例研究等が多用される。後者には、大学院生のキャリアや学校等の組織課題に即して、5つのプログラムが用意されている。それぞれのプログラムは3つの科目から成るが、それらは、総論的・事例的・実践的という異なる性格を帯びたものである。それらの履修を通じて大学院生は、当該プログラムの内容を専門的かつ多角的に学ぶことができる。

#### [援助ニーズ教育実践コース]

本コースでは、教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野にまたがるクロスカリキュラムを導入し、一人ひとりの子どもの中に絡み合っただ複合的に存在する多様な援助ニーズのアセスメントと、それに基づいた教育実践の方法を修得させることをねらいとする。学校現場における協働的援助の実践力を育成するプログラム科目として、「いじめ・不登校・問題行動」、「子どもの障がい・健康課題」、「養護」、「就学前教育」の4つを開設する。養護プログラムでは、養護教諭の専門性に特化した協働的援助の実践力、就学前教育プログラムでは、就学前教育や子ども支援に特化した実践力を育成するカリキュラムを開設する。

#### [教育実践力コース]

本コースでは、研究科共通科目の「教育課程編成の今日的課題」及び「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」とコース共通科目の「教育実践の研究手法」を起点とし、コース科目などを履修した上で、コース共通科目の「カリキュラム・マネジメントの展開」で統合するようにカリキュラムを設計している。コース共通科目の「協働的プロジェクト演習」や「カリキュラム・マネジメントの展開」では、専門教科の異なる院生がグループをつくり、個々の特性を生かした協働的・創造的なプロジェクト学習が展開され、教科領域の違いを超えた、教科横断的・総合的な学びが実現される。また、ICTを含むEラーニングや国際教育比較交流・総合的な学習といった今日的課題に関する科目も開講し、教育現場の諸課題に、広い視野をもって即応できる能力を育成する。選択科目では、A)教科横断的かつ各校園種にまたがる長期的視点で教科領域のカリキュラムを構想・実践する能力、B)授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげる能力、C)教科領域の先端的な教材・題材を開発し、実践的に展開できる能力、を育成する。これらはそれぞれA群「カリキュラムデザイン演習」、B群「授業研究演習」、C群「教材・題材開発研究」という選択科目群に対応している。学校実習・課題研究とこれらのコース科目が緊密に連携・往還することで、高度でかつ総合的な実践力を育成する。また、大阪府教育庁・大阪市教育委員会の要望の強い高度理数教育の充実のため、「教科内容研究(科学と数学)」を高度理数教育科目として開講する。

#### [特別支援教育コース]

本コースでは、特別支援の理論と実際について、教育学、心理学、臨床学などの専門分野の観点から多角的に学ぶとともに、障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がい児への対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育における現代的課題に即応できる実践力を培うカリキュラムとする。

#### (d) 課題研究科目

本教職大学院では、入学時から院生自らが明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、時間をかけて課題解決に向けた実践的探究を進めることとしている。課題研究科目は、2年次に設定され、教職大学院における学びを統合するものである。研究科共通科目やコース科目等で学んだ方法論に基づいて課題解決を行うための基礎的なメカニズムを解明し、2年間を通じて行う学校実習での実践を踏まえ、得られた知見を学校実践の現場に還元することを意図しながら、実践的研究を最終的に報告書としてまとめ、さらに研究発表と審査を経て単位を認める。

### 3. 教育の実施体制

#### <専任教員の配置と兼任教員による協力指導体制>

今回の本教職大学院拡充計画においては、現教職大学院専任教員に加え、新たなコンセプトの3コース設置に伴う専任教員の配置を主眼に教員組織を構築した。教職大学院専任教員への移行に際しては、研究業績等のみならず教育現場に関する高度な知見を有することを最低条件とし、特に教科専門担当教員については、学校等での教職経験や学校等との協働による教育実践又は実践研究の経験を有する者を基準として教職大学院専任教員として配置した。

本教育課程の基礎をなし包括的・体系的な視点を養うために全てのコースの学生が共通に履修する研究科共通科目は、主に学校現場の実情に即した実践的な教職教育を研究テーマとしている研究者教員と、現場経験が豊富な実務家教員によるティームティーチングによる授業を展開する。理論と実践をつなぐ複数の視点による授業が実施されるとともに、座学だけではなく、様々なワークショップや現場での体験を含めた授業方法を取り入れ、教職大学院での学びの始点(研究科共通科目)から理論と実践の融合の観点を通底させる。

また、主として学部卒学生を入学対象とし、教科領域を扱う教育実践力コースにおいては、コース科目全体の力

リキュラム構造として教科教育と教科専門の融合、教科複合型の内容等を担保するため、専任教員以外の教員養成系教員の協力体制（兼任教員）を構築している。

全てのコースを通じて、ほぼ全ての教員養成系教員が、専任又は兼担として本教職大学院への運営に関与することで、異なる価値観をもつ研究者教員・実務家教員との協働による新たな課題発見や解決方法の発見等に繋げるとともに、学部教育へフィードバックを実現し、学部と教職大学院の一貫性のある教育システム構築に向けた契機とする。

#### 4. 教員の資質の維持向上の方策

##### ①ファカルティ・ディベロップメントの着実な実施

教員の資質向上のために実施される本学のFDは、「大阪教育大学SD・FD事業の全学的方針」に基づいた取り組みを行っている。全学的方針の項目の一つとして、「教員養成大学の教職員に必要な職能開発を意図するもの。特に、実践研究と学問探究の両方に軸足を置く教員、並びに教員養成にかかる諸制度や政策を把握しつつ本学の強み・役割を活かし改革に繋げることでできる職員を育成する事業を推奨する。」としており、全学をあげて教科専門と教科教育を一体化させていくこととした。FD組織は、ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会によって実施される全学FDと、各部局で実施される部局FDから構成されている。本教職大学院は、その構成員が全学FDに参画するとともに、修士課程から教職大学院へ移行した教員の継続的な力量向上を重視し、本教職大学院独自のFDも定期的かつ計画的に企画・実施する。その代表的なものとして、例えば、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業の実現を点検するために、授業研究を実施する（授業を他の教員等が観察し、それをアクティブ・ラーニングの計画・実施を視点として批評するカンファレンス）。また、カリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスの内容を相互に点検する。さらには、院生の授業評価結果に基づく授業改善に関する意見交換会、学校実習の指導についての事例検討会を行う。これらに加えて、教員養成の新たな潮流である、教員の資質・能力に関する育成指標の内容や作成過程に関する報告会を開催する。

##### ②相互授業公開等による学び合いの促進

本教職大学院の授業科目では、教員の相互授業公開を恒常的に実施するとともに、複数の教員が参加するリフレクション・ミーティングを定期的に行うことにより、教員相互の学び合いを促進することで教員の継続的な資質の向上を図る。

##### ③院生による授業評価の実施

授業改善につながる取組としては、院生による授業評価を実施し、「学生による授業評価集計結果について (<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/kyomu/fd.html>)」のウェブページで公開し、授業改善につながる取組を行う。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	共通科目18単位以上、学校実習科目10単位、コース科目14単位以上、課題研究科目4単位の、計46単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限：36単位(年間))	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週
1時限の授業時間		90分

教育課程等の概要（事前伺い）

（連合教職実践研究科 高度教職開発専攻（教職大学院））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
研究科共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	1前	2	-	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	1前	2	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	0	兼1	共同
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2	-	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-	共同
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教師力と学校力	2後	2	-	-	-	○	-	4	0	0	0	0	0	-	共同
	現代的教育科目	教育研究方法演習	1後	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	兼1	共同
		学校安全と危機管理	2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼5	オムニバス・共同
		人権教育の課題と実践	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	共同
		健康教育の理解と実践	休	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	兼2	オムニバス
子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践		1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同	
	社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	共同	
	小計（13科目）	-	16	8	0	-	-	-	11	2	1	0	0	0	兼9	-	
学校実習科目	基本学校実習Ⅰ	1前	-	2	-	-	-	○	11	3	1	0	0	0	兼20	-	
	基本学校実習Ⅱ	1後	-	2	-	-	-	○	11	3	1	0	0	0	兼20	-	
	発展課題実習Ⅰ	2前	-	3	-	-	-	○	11	3	1	0	0	0	兼20	-	
	発展課題実習Ⅱ	2後	-	3	-	-	-	○	11	3	1	0	0	0	兼20	-	
	小計（8科目）	-	0	10	0	-	-	-	11	3	1	0	0	0	兼20	-	
スクーリーダーシッププログラムコース科目	コース共通科目	スクーリーダーシップの理論と実践	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
		エビデンスベースの学校改革	2前	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-	共同
	管理職プログラム	スクーリーダーのマネジメント	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同
		学校組織開発	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
	実践的リーダープログラム	チーム学校の実践的展開	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
		学校におけるコーディネーション	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同
	教育委員会指導主事プログラム	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
		校内研修の持続的発展	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
	グローバルスクールプログラム	学校に対するコンサルテーション	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同
		行政研修の体系と実践	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
メディア・情報リテラシー教育プログラム	学校支援のための施策展開	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同	
	グローバル時代の教師	1前	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	共同	
	グローバルリテラシーの育成	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同	
	グローバルプログラムの開発	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同	
	授業におけるICT活用の理論と実際	1前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	共同	
	メディア・情報リテラシーの理論と実践	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	共同	
	メディア・情報教育の企画・運営	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	共同	
	小計（17科目）	-	0	34	0	-	-	-	8	2	0	0	0	0	-	-	
援助ニーズ教育実践コース科目	コース共通科目	協働的援助の理論と実践	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
		社会環境と子どもの心身の理解	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	兼2	オムニバス・共同
		児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	1前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	兼2	オムニバス
	いじめ・不登校・問題行動対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス
		学校危機における援助ニーズ	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	共同
	子どもの障がい・健康課題対応プログラム	予防的な関わりと協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	共同
		障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	1	0	0	0	兼1	オムニバス・共同
	養護プログラム	メンタルヘルス課題の理解	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	共同
		共生社会をめざした協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	兼2	オムニバス
	就学前教育プログラム	養護実践の理論と方法	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-	共同
子どもの疾病・傷害と援助ニーズ		2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス	
	子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	兼1	オムニバス	
	就学前の子どもの援助のための政策・システム	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス	
	就学前の援助ニーズへの多様な支援	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス	
	就学前教育と福祉の協働	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス	
	小計（15科目）	-	0	30	0	-	-	-	1	1	1	0	0	0	兼14	-	

天王寺キャンパス開講教科関係科目	学習開発研究 (国語)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究 (算数)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究 (音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究 (図画工作)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究 (体育)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究演習 (国語)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究演習 (英語)	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	学習開発研究演習 (算数)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究演習 (音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究演習 (図画工作)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究演習 (体育)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (英語)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (社会)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (理科Ⅰ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (理科Ⅱ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (理科Ⅲ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究 (音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (英語)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (社会)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅰ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅱ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅲ)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習 (音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
小計 (23科目)		-	0	46	0	-	-	1	0	0	0	0	0	兼11	-
課題研究科目	実践課題研究Ⅰ	2前	2	-	-	-	○	-	11	3	1	0	0	兼20	
	実践課題研究Ⅱ	2後	2	-	-	-	○	-	11	3	1	0	0	兼20	
	小計 (2科目)		-	4	0	0	-	11	3	1	0	0	兼20	-	
合計 (192科目)			-	20	128	0	-	11	3	1	0	0	兼31	-	
学位又は称号		教職修士 (専門職)		学位又は学科の分野				教員養成関係							

教育課程等の概要（事前伺い）

（連合教職実践研究科 高度教職開発専攻（教職大学院））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
研究科 共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	1前	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同	
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同	
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	1前	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同	
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	兼1	共同	
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教師力と学校力	2後	2	-	-	-	○	-	2	3	0	0	0	-	共同	
	現代的 教育科目	教育研究方法演習	1後	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼3	共同	
		学校安全と危機管理	2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼5	共同・ オムニバス	
		人権教育の課題と実践	2前	-	2	-	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	1前	-	2	-	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	特別ニーズ教育の理論と実践	1前	-	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼9	オムニバス	
	小計（13科目）	-	16	6	0	-	-	-	14	6	0	0	0	兼25	-		
学校 実習科目	基本学校実習Ⅰ	1前	-	2	-	-	-	○	18	9	1	0	0	兼63			
	基本学校実習Ⅱ	1後	-	2	-	-	-	○	18	9	1	0	0	兼63			
	基本学校実習Ⅲ（特別支援）	1前	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8			
	基本学校実習Ⅳ（特別支援）	1後	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8			
	発展課題実習Ⅰ	2前	-	3	-	-	-	○	18	9	1	0	0	兼63			
	発展課題実習Ⅱ	2後	-	3	-	-	-	○	18	9	1	0	0	兼63			
	発展課題実習Ⅲ（特別支援）	2前	-	3	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8			
	発展課題実習Ⅳ（特別支援）	2後	-	3	-	-	-	○	1	0	0	0	0	兼8			
	小計（8科目）	-	0	20	0	-	-	19	9	1	0	0	兼71	-			
教育実践 力 コース科目	コース 共通科目	教育実践の研究方法	1前	-	2	-	-	○	-	11	4	0	0	0	-	共同	
		協働的プロジェクト演習	2前	-	1	-	-	○	-	11	4	0	0	0	-	共同	
		カリキュラム・マネジメントの展開	2後	-	1	-	-	○	-	7	3	0	0	0	-	共同	
		Eラーニング	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1		
		国際教育比較実践交流	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1		
		総合的学習の開発と実践	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1		
	A群	カリキュラムデザイン演習（言語と文化）A	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（言語と文化）B	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（個人と社会）A	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（個人と社会）B	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（科学と数学）A	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（科学と数学）B	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（科学と数学）C	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（身体と表現）A	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（身体と表現）B-a	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
		カリキュラムデザイン演習（身体と表現）B-b	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1		
		カリキュラムデザイン演習（身体と表現）C	1後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-		
		B群	授業研究演習（言語と文化）A [国語]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
			授業研究演習（言語と文化）B [英語]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
			授業研究演習（個人と社会）A [家庭科]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼2	共同
授業研究演習（個人と社会）B [社会a]	1後・2前		-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
授業研究演習（個人と社会）B [社会b]	1後・2前		-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
授業研究演習（個人と社会）C [道徳]	1後・2前		-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス		
C群	授業研究演習（科学と数学）A [理科]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
	授業研究演習（科学と数学）B [技術]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
	授業研究演習（科学と数学）C [算数・数学]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	オムニバス		
	授業研究演習（身体と表現）A [音楽]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同		
	授業研究演習（身体と表現）B [図画工作・美術]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
	授業研究演習（身体と表現）B [書道]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
	授業研究演習（身体と表現）C [体育・保健体育]	1後・2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
	教材・題材開発研究（言語と文化）A [音声言語表現]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1			
教材・題材開発研究（言語と文化）A [文字言語表現]	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1				

C 群	教材・題材開発研究（言語と文化）A〔古典文学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（言語と文化）A〔児童文学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（言語と文化）B〔英語教育とICT〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（言語と文化）B〔英文法・英作文〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（言語と文化）B〔小学校英語〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（言語と文化）B〔リスニング・リーディング〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（個人と社会）A〔食育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）A〔食と健康〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）A〔家族と保育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）A〔被服と生活〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）A〔消費生活と環境〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼2 オムニバス
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔いのち教育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔哲学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔倫理〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔社会学a〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔社会学b〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔法と社会〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔歴史〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔防災安全〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔地誌〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）B〔地図〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）C〔道徳a〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（個人と社会）C〔道徳b〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）A〔物理〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（科学と数学）A〔化学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）A〔生物〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）A〔地学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔木材加工〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔金属加工〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔電気〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔情報〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔栽培〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）B〔技術統合〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼4 共同
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔代数〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔幾何〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔解析〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔確率〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔応用数学〕	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教材・題材開発研究（科学と数学）C〔数学教育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）A〔作曲〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）A〔指揮〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）B〔美術鑑賞〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）B〔書鑑賞〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）B〔芸術と異文化交流1〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教材・題材開発研究（身体と表現）B〔芸術と異文化交流2〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼2 オムニバス
教材・題材開発研究（身体と表現）B〔映像・メディア教育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔剣道〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔柔道〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔球技〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔器械運動〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔保健学習〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔健康教育〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
教材・題材開発研究（身体と表現）C〔体育原理〕	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
高度理数 教育科目	教科内容研究（科学と数学）A〔実験物理〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔有機化学〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔植物進化〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔動物系統〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔動物発生〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔気象〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔天文〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）A〔地質〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容研究（科学と数学）B〔木材加工〕	1・2	-	-	1	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	教科内容研究（科学と数学）B〔金属加工〕	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1

	教科内容研究 (科学と数学) B [電気]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) B [情報]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) B [栽培]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [代数]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [幾何]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [解析]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [確率]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教科内容研究 (科学と数学) C [応用数学]	1・2	-	-	1	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	教科内容研究 (科学と数学) C [数学教育]	1・2	-	-	1	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	小計 (104科目)	-	0	113	19	-	-	-	11	4	0	0	0	0	兼66	-
特別支援教育コース科目	インクルーシブ教育の理論と実際	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼3	共同
	特別支援教育コーディネーター論	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼3	オムニバス
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別なニーズのある子どもの臨床	2後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達障がいのある子どもの理解と支援	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別支援教育の現代的課題	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼9	オムニバス
	発達支援教育実践論	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	特別支援教育の教育課程と授業論	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼4	共同
	教育相談支援の理論と実際	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
小計 (10科目)	-	0	20	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	兼9	-	
課題研究科目	実践課題研究 I	2前	2	-	-	-	○	-	19	9	1	0	0	0	兼71	
	実践課題研究 II	2後	2	-	-	-	○	-	19	9	1	0	0	0	兼71	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	-	-	19	9	1	0	0	0	0	兼71	-
合計 (192科目)		-	20	159	19	-	-	19	9	1	0	0	0	0	兼84	-
学位又は称号		教職修士 (専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係								

## 教育課程等の概要 (事前伺い)

(連合教職実践研究科 高度教職開発専攻 (教職大学院) 【既設】)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	1前	2	-	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		学校を基盤とするカリキュラム開発	1後	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	1前	2	-	-	-	○	-	3	0	0	0	0	-	共同
		今日的学力と実践的指導	1後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	共同
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2	-	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		課題をかかえる子どもへの実践的対処法	1後	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2	-	-	-	○	-	3	0	0	0	0	-	共同
		大阪の学校づくり	1前	-	2	-	-	○	-	3	0	0	0	0	-	共同
	学校教育と教員の在り方に関する領域	専門職としての教員	1前	2	-	-	-	○	-	2	0	0	0	0	兼1	共同
		教師力と学校力	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同
		教育研究方法演習	1後	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	兼1	共同
		人権教育の課題と実践	2前	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同
	小計 (12科目)	-	14	10	0	-	-	-	11	1	0	0	0	兼2	-	
学校実習科目	基本学校実習 I	1前	2	-	-	-	-	○	16	2	0	0	0	-	-	
	基本学校実習 II	1後	2	-	-	-	-	○	16	2	0	0	0	-	-	
	発展課題実習 I	2前	3	-	-	-	-	○	16	2	0	0	0	-	-	
	発展課題実習 II	2後	3	-	-	-	-	○	16	2	0	0	0	-	-	
	小計 (4科目)	-	10	0	0	-	-	-	16	2	0	0	0	-	-	
コース科目	学校マネジメント	学校戦略論	1後	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		学校組織開発論	1前	-	2	-	-	○	-	3	0	0	0	0	-	共同
		スクールリーダーシップ論	2前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同
		学校安全と危機管理	2後	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼5	ナムニバス
		教育改革と学校改革	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		学校コミュニティ論	1前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		学校組織マネジメント	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育実践コーディネート	校内研修のマネジメント	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	-
		校内研修のコンサルテーション	1後	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		行政研修の企画・運営	2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	兼1	共同
		生徒指導の心理と方法	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		児童・生徒の発達と実践的課題	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		子どもの問題行動に対する実践的対処法	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育実践力開発	ICT教育の推進	2前	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	-
		教育評価の理論と方法の実践的探究	1後	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同
		学級づくりへの実践的アプローチ	1後	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	-	共同
		社会的包摂のための教育の実践的探究	2前	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同
		特別ニーズ教育の理論と実践	2後	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	兼6	ナムニバス
		学習開発研究演習 (英語)	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	-
		学習開発研究演習 (理科)	1前	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	-
		国際教育比較実践交流	1後	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		Eラーニング	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		ICT環境の活用	2前	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	共同
		道徳教育の理論と方法	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
		特別活動の理論と方法	2前	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	共同
小計 (25科目)	-	0	50	0	-	-	-	1	0	0	0	0	兼23	-		
課題研究科目	実践課題研究 I	2前	2	-	-	-	○	-	16	2	0	0	0	-	-	
	実践課題研究 II	2後	2	-	-	-	○	-	16	2	0	0	0	-	-	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	-	-	-	16	2	0	0	0	-	-	
合計 (43科目)		-	28	60	0	-	-	-	16	2	0	0	0	兼24	-	
学位又は称号		教職修士 (専門職)	学位又は学科の分野			教員養成関係										

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 学校教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻専門科目	教育方法学研究	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	幼児心理学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	道德教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
教育科学関係基礎科目	道德教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	教育方法学特論Ⅲ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	教育社会学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	生徒指導心理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	青年心理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	青年心理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	発達心理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	児童心理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	児童心理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	心理診断法特論	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	行動分析特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	行動分析特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	発達臨床心理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	発達臨床心理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	現代の教育と心理学	1・2	-	2	-	○	-	-	4	2	0	0	0	兼1	
	保育内容特論Ⅲ(表現の発達と保育)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	道德教育学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
道德教育方法学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-		
小計(31科目)	-	0	62	0	-	-	-	7	9	0	0	0	兼4	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	5	6	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	5	6	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	5	6	0	0	0	-	
合計(33科目)		-	6	62	0	-	-	-	7	9	0	0	0	兼4	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 特別支援教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学 関係 基礎 科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門 科目	特別支援教育実践研究Ⅰ	1・2	2	-	-	-	-	○	6	2	2	0	0	0	-	
	特別支援教育実践研究Ⅱ	1・2	2	-	-	-	-	○	6	2	2	0	0	0	-	
	特別支援教育基礎研究	1・2	2	-	-	○	-	-	6	2	2	0	0	0	-	
	障害児教育特講Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	3	0	1	0	0	0	-	
	障害児教育特講Ⅱ	1・2	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	0	-	
	障害児教育特講Ⅲ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	障害児教育特講Ⅳ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	障害児心理特講Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	障害児心理特講Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-	
	障害児心理特講Ⅲ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	障害児心理特講Ⅳ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	障害児臨床特講Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	障害児臨床特講Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	特別支援教育論	1・2	-	2	-	○	-	-	6	2	2	0	0	0	-	
	発達支援教育論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	兼1	
	教育支援計画論	1・2	-	2	-	○	-	-	4	0	0	0	0	0	-	
	教育相談支援論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	兼1	
	教育臨床特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	教育臨床特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
小計(19科目)	-	6	32	0	-	-	-	6	2	2	0	0	0	兼1	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	6	2	2	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	6	2	2	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	6	2	2	0	0	0	-	
合計(31科目)		-	12	52	0	-	-	-	6	2	2	0	0	0	兼10	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 国語教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論 I	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論 I	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論 I	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論 I	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論 I	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論 II	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門科目	国語科教育実践論	1	2	-	-	-	-	○	1	0	0	0	0	-	
	解釈・批評実践論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	言語教育論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	日本文学教育論	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	漢字漢文教育論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
国語科教育学原論	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-		
基礎 科目	国語学特論 I	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	国語学特論 II	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	国語学と国語教育論	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	国語学演習 I	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	国語学演習 II	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	古典文学特論	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	文学と国語教育論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	近代文学特論	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	日本文学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	世界の国語教育の現在	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	国語科教育学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	解釈・批評学原論	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	解釈・批評学演習	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	小計(19科目)	-	2	36	0	-	-	-	7	0	0	0	0	兼1	-
研 究 題	課題研究 I	2	3	-	-	-	○	-	5	0	0	0	0	-	
	課題研究 II	2	3	-	-	-	○	-	5	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	5	0	0	0	0	-	
合計(31科目)		-	8	56	0	-	-	-	7	0	0	0	0	兼10	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 英語教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学 関係 基礎 科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門 科目	英語教育フィールド研究	1	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語科教育概論Ⅰ	1	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語科教育概論Ⅱ	1	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	言語学と英語教育論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	言語学と英語教育論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	英語教育学特論Ⅰ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語教育学特論Ⅰ-B	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語教育学特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	英語教育学特論Ⅱ-B	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	第二言語習得研究	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	初等英語教育研究	1	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
小計(13科目)	-	6	20	-	-	-	-	3	3	0	0	0	0	-	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	3	3	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	3	3	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	-	-	-	-	-	3	3	0	0	0	0	-	-
合計(25科目)		-	12	40	0	-	-	-	3	3	0	0	0	0	兼9	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 社会科教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門科目	社会科教育実践研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	3	0	0	0	0	0	-	
	社会科教育実践研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	3	1	0	0	0	0	-	
	歴史教育論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	地理教育論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	0	-	
	社会学教育論	1・2	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	
	哲学・倫理学教育論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
社会科教育総論	1・2	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	0	-		
専攻 専門科目	日本考古学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	日本近世史特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	日本近代史特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	東洋史特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	0	-	
	西洋史特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	西洋史演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	人文地理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	自然地理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	社会学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	社会調査特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	いのち教育	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	哲学・倫理学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	哲学・倫理学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	哲学・倫理学特論Ⅲ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	哲学・倫理学特論Ⅳ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	社会科教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	社会科教育学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
社会科教授学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-		
社会科教授学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-		
小計(26科目)	-	0	52	0	-	-	-	11	1	1	0	0	0	兼4	-	
研究 課題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	11	1	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	11	1	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	11	1	0	0	0	0	-	
合計(38科目)		-	6	72	0	-	-	-	11	1	0	0	0	0	兼13	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 数学教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門科目	数学教育実践研究	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	数学科教育特論Ⅰ	1・2	2	-	-	○	-	-	1	0	0	0	0	兼1	
	算数科教育特論Ⅰ	1・2	2	-	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅰ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅰ-B	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅳ-A	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	解析学特論Ⅳ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	幾何学特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	幾何学特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	代数学特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	代数学特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	数学科教育特論Ⅲ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
算数科教育特論Ⅲ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-		
小計(30科目)	-	6	24	0	-	-	-	4	3	0	0	0	兼1	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	0	0	-	○	-	1	2	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	0	0	-	○	-	1	2	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	1	2	0	0	0	-	-
合計(42科目)		-	12	44	0	-	-	-	4	3	0	0	0	兼10	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野			教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 理科教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
小計(10科目)		-	0	20	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-	
専攻 専門科目	理科教育実践研究	1・2	2	-	-	-	○	-	6	6	0	0	0	0	-	
	理科教育特論Ⅰ	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	理科教育特論Ⅱ	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	物理教育総合演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	固体物理学	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	実験物理学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	物理教育内容学	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	機能性無機化学	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	コロイド・界面化学	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	構造化学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	超分子化学	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	有機合成化学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	生化学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	動物系統分類学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	植物分類・生態学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	生物学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	2	0	0	0	0	-	
	天文学Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	天文学Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	天文学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	天文学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
気象学Ⅰ	1・2	-	2	-	-	-	○	0	1	0	0	0	0	-		
気象学Ⅱ	1・2	-	2	-	-	-	○	0	1	0	0	0	0	-		
地質学特論	1・2	-	2	-	-	-	○	0	0	0	0	0	0	兼1		
理科教育特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-		
環境教育特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-		
小計(50科目)		-	6	44	0	-	-	7	6	0	0	0	0	兼2	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	4	3	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	4	3	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)		-	6	0	0	-	-	4	3	0	0	0	0	-	
合計(62科目)			-	12	64	0	-	-	7	6	0	0	0	0	兼11	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 家政教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-
専攻 専門科目	家庭科教育実践研究	1・2	2	-	-	-	○	-	4	3	0	0	0	0	-	
	家庭科教育学Ⅰ	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	家庭科教育学Ⅱ	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	食物学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	食物学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	食物学実験	1・2	-	1	-	-	-	○	1	0	0	0	0	0	-	
	食物学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	2	0	0	0	0	0	-	
	被服学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	被服学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	被服学実験	1・2	-	1	-	-	-	○	0	1	0	0	0	0	-	
	住居学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	保育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	保育学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	生活経営学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
消費者教育特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-		
生活経営学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-		
家族関係学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1		
家庭科教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-		
家庭科教育学特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-		
家庭科教育学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	2	1	0	0	0	0	-		
小計(20科目)	-	6	38	0	-	-	-	4	3	0	0	0	0	兼2	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	2	1	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	2	1	0	0	0	0	-	
合計(32科目)		-	12	58	0	-	-	-	4	3	0	0	0	0	兼11	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野			教員養成関係										

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 技術教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9	-	
専攻 専門科目	ものづくり教育実践	1・2	2	-	-	-	○	-	3	2	0	0	0	0	-	
	ものづくり教育実践演習	1・2	-	2	-	-	○	-	3	2	0	0	0	0	-	
	技術科教育特論Ⅰ-A	1・2	2	-	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	技術科教育特論Ⅰ-B	1・2	2	-	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	電気技術特論Ⅰ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	電気技術特論Ⅰ-B	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	電気技術演習Ⅰ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	電気技術演習Ⅰ-B	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	電気技術特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	電気技術特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	電気技術演習Ⅱ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	電気技術演習Ⅱ-B	1・2	-	1	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	情報技術特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	情報技術特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	情報技術特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	機械技術特論Ⅰ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	機械技術特論Ⅰ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	機械技術演習Ⅰ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	機械技術演習Ⅰ-B	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	機械技術特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	機械技術特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	機械技術演習Ⅱ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	機械技術演習Ⅱ-B	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	木材加工技術特論A	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	木材加工技術特論B	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	木材加工技術演習A	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	木材加工技術演習B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	栽培植物学特論	1・2	-	2	-	-	-	○	0	0	0	0	0	0	兼1	
	技術科教育演習Ⅰ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	技術科教育特論Ⅱ-A	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	技術科教育特論Ⅱ-B	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	技術科教育演習Ⅱ-A	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	技術と倫理	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
小計(33科目)	-	6	50	0	-	-	-	3	2	0	0	0	0	兼4	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	1	1	0	0	0	0	-	
合計(45科目)		-	12	70	0	-	-	-	3	2	0	0	0	0	兼13	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 音楽教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学 科学 関係 基礎 科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9
専攻 専門 科目	音楽科教育実践学演習Ⅰ	1	-	2	-	-	-	○	4	1	0	0	0	0	-
	音楽科教育実践学演習Ⅱ	1	-	2	-	-	-	○	4	1	0	0	0	0	-
	音楽教育原論Ⅰ	1	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽教育原論Ⅱ	1	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	演奏(声楽)研究Ⅰ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(声楽)研究Ⅱ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(声楽)研究Ⅲ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(声楽)研究Ⅳ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏企画実践演習Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏企画実践演習Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(鍵盤楽器)研究Ⅰ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(鍵盤楽器)研究Ⅱ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(鍵盤楽器)研究Ⅲ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	演奏(鍵盤楽器)研究Ⅳ	1・2	-	1	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	アンサンブル(器楽)研究Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-
	アンサンブル(器楽)研究Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-
	作曲演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	作曲研究Ⅰ	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	作曲研究Ⅱ	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	作曲研究Ⅲ	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	作曲研究Ⅳ	1・2	-	1	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	指揮法理論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽学演習Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	音楽学演習Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	原典研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	原典研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	体系的音楽学特講	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-
	音楽科教育課程研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽科教育課程研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽科教育方法研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽科教育方法研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	音楽科教育内容研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	音楽科教育内容研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
音楽表現過程論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
音楽表現内容論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
音楽表現総合演習	1・2	-	2	-	-	○	-	2	1	0	0	0	0	-	
メディア文化論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
映像音楽論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
音楽科教育総合実践演習Ⅰ	1	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-	

	音楽科教育総合実践演習Ⅱ	1	-	2	-	-	-	○	1	1	0	0	0	-	
	音楽科教育総合実践演習Ⅲ	2	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	-	
	音楽科教育総合実践演習Ⅳ	2	-	2	-	-	-	○	1	1	0	0	0	-	
	小計（42科目）	-	0	72	0	-	-	-	4	3	0	0	0	-	-
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	2	2	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	2	2	0	0	0	-	
	小計（2科目）	-	6	0	0	-	-	-	2	2	0	0	0	-	-
合計（54科目）		-	6	92	0	-	-	-	4	3	0	0	0	兼9	-
学位又は称号		修士（教育学）			学位又は学科の分野				教員養成関係						

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 美術教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学 科学 関係 基礎 科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼9
専攻 専門 科目	造形教育実践	1	2	-	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-
	造形教育理論Ⅰ	1	2	-	-	○	-	-	1	1	0	0	0	0	-
	造形教育理論Ⅱ	1	2	-	-	○	-	-	1	1	0	0	0	0	-
	美術表現特論A	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	美術表現教材演習A	1・2	-	2	-	-	-	○	0	0	0	0	0	0	兼1
	美術表現特論B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	美術表現教材演習B	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	美術表現特論C	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	美術表現教材演習C	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	美術表現特論D	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	美術表現教材演習D	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	造形芸術学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	0	-
	鑑賞学教材演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-
	美学・美術史研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-
	美学・美術史研究Ⅱ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	美学・美術史研究Ⅲ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	美術教育学特論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	美術教育学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	1	0	0	0	0	-
	美術教育学研究	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	書道表現特論	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	書道教材演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-
	表現研究EⅠ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	表現研究EⅡ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	表現研究FⅠ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	表現研究FⅡ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1
	造形教育理論演習Ⅰ	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-
	造形教育理論演習Ⅱ	1	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-
	現代的教育課題とアート	1・2	-	2	-	-	○	-	1	3	1	0	0	0	-
小計(28科目)	-	6	50	0	-	-	-	2	4	1	0	0	0	兼6	-
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	1	3	1	0	0	0	-
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	1	3	1	0	0	0	-
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	1	3	1	0	0	0	-	-
合計(40科目)		-	12	70	0	-	-	2	4	1	0	0	0	兼15	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 保健体育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(10科目)		-	0	20	0				0	0	0	0	0	0	兼9
専攻 専門科目	保健体育科教育実践研究	1・2	2	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	保健体育科教育学特論	1	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	保健体育科教育学特論演習	1	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	スポーツ教育学総論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	0	-	
	体育原理特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	0	-	
	体育原理特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-	
	体育史特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	体育史特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	体育心理学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	
	体育心理学特論演習	1・2	-	2	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	
	運動学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	運動学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	運動方法学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	0	-	
	運動方法学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	0	-	
	運動生理学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	運動生理学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	0	-	
	学校保健学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	0	-	
	学校保健学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
	保健体育科教育研究法	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	0	-	
	保健体育科教育研究法演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	0	-	
小計(20科目)		-	2	38	0				4	2	2	0	0	0	兼1	-
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	4	2	1	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	4	2	1	0	0	0	-	
	小計(2科目)		-	6	0	0			4	2	1	0	0	0	-	-
合計(32科目)			-	8	58	0			4	2	2	0	0	0	兼11	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 養護教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学 科学関係 基礎科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育方法学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校経営学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	発達心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	学校臨床心理学基礎論	1	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	幼児教育学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	道徳教育学特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅰ	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1	
	同和教育計画特論Ⅱ	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1	
小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼9	-	
専攻 専門科目	養護学特論	1・2	2	-	-	○	-	-	0	0	1	0	0	-	
	教育保健学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	健康生理学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	養護学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	1	0	0	-	
	教育保健学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	健康生理学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	学校看護学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-	
	学校看護学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	身体発達学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	身体発達学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	児童思春期心理発達論	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	児童思春期心理発達論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-	
	臨床医科学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-	
	臨床医科学特論演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
小計(14科目)	-	2	26	-	-	-	-	3	3	1	0	0	-	-	
研 究 題	課題研究Ⅰ	2	3	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	課題研究Ⅱ	2	3	-	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
	小計(2科目)	-	6	0	0	-	-	-	1	0	0	0	0	-	
合計(26科目)		-	8	46	0	-	-	-	3	3	1	0	0	兼9	-
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教員養成関係								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 実践学校教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻 目別	実践教育学特論	1	2	-	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-
	実践教育心理学特論	1	2	-	-	-	-	○	0	0	1	0	0	-
専攻 科目別	カウンセリング特論	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-
	道徳教育実践学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-
	特別支援教育臨床特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	1	0	0	0	-
	グローバル時代の教育実践研究	1・2	-	2	-	○	-	-	3	1	0	0	0	-
専攻 科目別	実践教育学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	実践教育心理学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-
	学校心理学特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	1	0	0	-
	学校心理学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	子どもの問題行動に対する実践的対応	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1
	心理アセスメント特論	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1
	生徒指導の心理と方法	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-
	児童・生徒の発達と実践的課題	1・2	-	2	-	○	-	-	0	0	0	0	0	兼1
	道徳教育実践学演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	特別支援教育臨床演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	教育情報研究演習	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究Ⅰ(国語)	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-
	学習開発研究演習Ⅰ(国語)	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-
	学習開発研究Ⅰ(算数)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究演習Ⅰ(算数)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究Ⅰ(理科)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究Ⅰ(音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	学習開発研究Ⅰ(体育)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究演習Ⅰ(体育)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究Ⅰ(美術)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究演習Ⅰ(美術)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	1	0	0	0	-
	学習開発研究Ⅰ(英語)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究Ⅰ(家庭科)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究演習Ⅰ(家庭科)	1・2	-	2	-	-	○	-	0	0	0	0	0	兼1
	教科内容開発研究Ⅰ(生活)	1・2	-	2	-	-	○	-	3	0	0	0	0	-
	教科内容開発研究Ⅰ(音楽)	1・2	-	2	-	○	-	-	1	0	0	0	0	-
	教科内容開発研究演習Ⅰ(音楽)	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-
	教科内容開発研究Ⅰ(理科Ⅰ)	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-
	教科内容開発研究Ⅰ(理科Ⅱ)	1・2	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	-
	教科内容開発研究Ⅰ(理科Ⅲ)	1・2	-	2	-	-	-	○	1	0	0	0	0	-
	理科授業実践研究Ⅰ	1・2	-	2	-	-	-	○	3	0	0	0	0	-
	理科授業実践研究Ⅱ	1・2	-	2	-	-	-	○	3	0	0	0	0	-
経済学教育特論	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
経済学教育演習	1・2	-	2	-	-	○	-	1	0	0	0	0	-	
小計(40科目)		-	4	76	0	-	-	-	7	6	1	0	0	兼10
研 究 題 別	特別課題研究Ⅰ	2	2	-	-	-	○	-	7	6	1	0	0	-
	特別課題研究Ⅱ	2	2	-	-	-	○	-	7	6	1	0	0	-
	小計(2科目)		-	4	0	0	-	-	7	6	1	0	0	-
合計(42科目)			-	8	76	0	-	-	7	6	1	0	0	兼10
学位又は称号	修士(教育学)													
			学位又は学科の分野				教員養成関係							

(用紙 日本工業規格A4縦型)

## 授 業 科 目 の 概 要

(連合教職実践研究科 高度教職開発専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	教育課程編成の今日的課題	<p>本講義は、3つのアプローチで、今日的な教育課程の編成の課題について検討する。まず、主として文献を講読しながら、学力観、幼稚園教育要領・学習指導要領の変遷とそれに応じた教育課程の編成について整理する。次いで、現行の学習指導要領の特徴（基礎基本の徹底、思考力・判断力・表現力の育成、生きる力の育成、教育の情報化への対応等）に基づき、いくつかの学校園の教育課程の編成を評価し、その改善点を考察する（事例分析）。そして、最後に、所属校園等の学力実態を踏まえ、その向上を旨とする教育課程編成案を策定する。</p> <p>(1 木原 俊行・22八田 幸恵・34 長谷川 和弘・36 福永 光伸)</p>	共同
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	<p>「カリキュラム・マネジメント」概念の台頭に至る、カリキュラム開発研究の理論的発展について考察する。また、そのモデルとともに、好事例に接近する。さらに、幼稚園教育要領および学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの重要性や「主体的・対話的で深い学び」との関係についても論ずる。</p> <p>(4 田村 知子・21 臼井 智美・36 福永 光伸)</p>	共同
指導科法等に関する実践的領域	学習指導の実践的展開	<p>児童・生徒に資質・能力を育成するための習得・活用・探究型授業の実践的手法をその理論的背景と共に提示する。受講生がグループを構成し、各グループが研究課題をもち、授業を組み立てる。その後、その授業を実践し、学校現場からの評価を得ることなどの方法を考え、研究課題の特徴を実証的に分析する。最後に各グループの経験が共有化されるように、得られた知見をレポート集としてまとめる。以上を通して授業実践手法のレポーターを広げるとともに、実証的な効果研究の手法を身につけられるようにする。</p> <p>(3 柏木 賀津子・6 寺嶋 浩介・24 吉田 茂孝・31 岡 博昭・40 野中 拓夫・144 渡邊 創太)</p>	共同
相談生徒指導に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	<p>学校現場における子どもの心理的・発達的問題の基礎的理論を講義し、およびそれに基づく対処方法について、理論的・実践的検討をワークショップ形式も取り入れながら行っていく。具体的には、最新の研究知見に基づいた諸問題のメカニズム、および今学校現場で実際に起こっている事例を紹介する。その上で、グループディスカッション等を通じて、受講者自身が当該問題に関して主体的に考える機会も併せて提供する。</p> <p>(2 家近 早苗・23 福田 敦志・33 餅木 哲郎・53 大河内 浩人)</p>	共同
経営に経営する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	<p>学校経営と学級経営について理論的に整理し、実践事例について検討する。学校の自律・協働・参加を軸にした学校づくりの枠組を考えながら、事例にそって問題分析する。特に、教職員の協働、児童生徒の学級集団づくり、学校と地域の連携、学校と教育委員会のパートナーシップなどをテーマに扱い、学校の教育活動の組織化について理解を深める。そして、実践事例を検討することを通して、組織人としての発想と実践力を育てていく。 (なお、本科目で対象とする「学校」は、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校である。)</p> <p>(7 庭山 和貴・21 臼井 智美・32 田中 満公子)</p>	共同
在学方教育に関する領域	教師力と学校力	<p>本授業は、教職大学院の第IVセメスターに位置づく。それゆえ、受講者は、教職大学院における学びを「教師力」と「学校力」という視点で総覧するとともに、それを高めるためのプランを具体的に検討する。そのために、まず、受講者は、「教員の育成指標」をツールとして、それまでの教職大学院における学びを整理する。また、自らの力量を総点検し、それを高めるための行動計画を策定し、それを相互に批評する。次いで、受講者は、「チーム学校」の考え方をもとに、実習校等の学校改革の方途を構想し、交流する。</p> <p>(1 木原 俊行・2 家近 早苗・34 長谷川 和弘・35 岡田 和子・21 臼井 智美・22 八田 幸恵・23 福田 敦志)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代的 教育科目	教育研究方法演習	<p>複合的分野といわれる教育研究は、研究の目的や条件に沿って、必要な研究方法を組み合わせることで研究課題を明らかにするとされる。本授業では「実践課題研究」に向けて、それぞれが取り組む研究の特性と課題に即して、より適切な研究方法を選択できる広い知識と学術的技術を修得するため、教育研究の分野で主に用いられている研究方法に焦点を絞り、理論を踏まえて事例をもとにそれぞれの手法を学ぶ。</p> <p>(6 寺嶋 浩介・31 岡 博昭・35 岡田 和子・55 白井 利明・56 瀬戸口 昌也・57 高橋 登・115 高橋 一郎)</p>	共同
	学校安全と 危機管理	<p>三段階予防（1次予防・2次予防・3次予防）の観点から、これからの学校園における安全推進を目的とした安全教育・安全管理や組織活動の展開を担う教員にとって必要とされる基本的事項について解説する。さらに学校安全の先導的な事例の紹介や実際の活動への参加・見学、また具体的な学校危機事例に基づく演習を通じて、これからのわが国の教育現場における学校安全の現状を改善・発展させていくために必要とされる実践的能力と危機管理に携わる基礎的な対応能力の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(39 佐々木 靖・97 藤田 大輔・103 瀧野 揚三・142 岩切 昌宏・140 豊沢 純子／1回) (共同) 「学校安全と危機管理」の概要について紹介する。</p> <p>(97 藤田 大輔／6回) 学校園における安全教育（生活安全領域）の課題と今後の展開や、教育行政やチーム学校の視点から考えられる今後の課題について解説し、学校安全の先導的な事例を紹介するほか、諸外国における学校安全と危機管理の課題について、先導的事例を紹介しながら解説する。また、不審者対応訓練を通じた危機管理マニュアルの実践的活用について解説し、実践する。</p> <p>(140 豊沢 純子／2回) 学校園における安全教育・管理（災害安全領域）の課題と今後の展開について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(139 後藤 健介／1回) 学校園における安全教育・管理（災害安全領域）の課題と今後の展開について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(103 瀧野 揚三／2回) 学校事故対応や学校危機介入の基本的な姿勢について解説し、具体的な学校危機事例を紹介して、実践に結びつける。また、1次予防の観点から、学校安全の実践について実践的に考察する。</p> <p>(142 岩切 昌宏／2回) 2次予防の観点から、学校危機発生後の心のケアについて実践的に考察する。また、3次予防の観点から、学校危機発生後の学校・学級経営について実践的に考察する。</p> <p>(39 佐々木 靖・97 藤田 大輔／1回) (共同) これまでの演習内容を活かし、危機管理に必要とされる力を修得するためのまとめを行う。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	人権教育の 課題と実践	<p>本講義では、第一に、教職員の人権意識の現状と課題について、各自の自己洞察を踏まえ、幾つかの調査結果を用いながら考察する。第二に、戦後の同和教育から現在に至るまでの人権教育実践事例の中から、いくつかの転換点となった事例を用いて、各自の実践をふりかえり、人権教育の今後の在り方について考察する。第三に、経験の少ない教職員の人権感覚を養うために、人権教育研修に求められる今日的課題について事例を通して学ぶ。上記により、学校におけるChange Agent（変革推進者）として改革プランを作成・報告し、相互評価する。なお、本講義は、原則として、参加と協同の原則に基づいてワークショップの手法を用いて行う。</p> <p>(101 和田 良彦・102 森 実)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康教育の理解と実践	<p>主として教育課程の特別活動において実践される集団の保健指導を想定し、健康に関する現代的課題の理解、学校教育活動における健康教育実践の知識及び方法を学修させる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 平井 美幸／10回)            学校教育と子どもの健康について概観した上で、健康課題と予防的介入の視点から対人関係と疾病について考察する。健康教育実践の方法について、子どもの健康実態の把握、指導計画の立案、学習指導案の作成、授業評価及び介入効果の検討、個別の健康相談及び保健指導につなげる方法の検討を行う。また、学級活動や児童会活動・生徒会活動、学校保健委員会における健康教育実践について具体的に考察する。</p> <p>(96 永井 由美子／3回)            健康教育の目的と意義を概観した上で、健康課題と予防的介入の視点から生活環境と疾病の関係や生活習慣と疾病の関係について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(131 橋弥 あかね／2回)            健康課題と予防的介入の視点から生活行動と疾病（危険行動を中心に）について考察し、ICTを活用した健康教育に関する教材を作成する。</p>	オムニバス
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	<p>この授業では、貧困や虐待がどのように子どもと教育現場に影響を与えているのかについて、講義やデータ、映像資料から理解を得る。次に、貧困や虐待の被害を受けている子どもが学校現場で抱える課題、たとえば、不登校、いじめ加害・被害、自傷行為、暴言と暴力等々の側面から事例を踏まえ検討する。加えて、教師が使える援助技法について解説する。最後に個別支援と学級集団づくりの文脈の中でどのように支援していけば良いのかについて教師の視点から考える。</p> <p>(5 水野 治久・112 上田 裕美)</p>	共同
	社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究	<p>マイノリティ、障がい、貧困等により不利な状況にある全ての幼児・児童・生徒を包摂する社会的・制度的仕組みを理論的かつ実践的に知るために、乳児院、適応指導教室、児童自立支援施設、児童養護施設等を対象にした理論的学習を行う。また、受講生が分担して本授業科目が指定する機関で実習を行い、そこでの経験を共有化するよう導く。さらに、校内での教員以外の専門職との連携の在り方の実際を実地に知る機会を与える。最後に全体を俯瞰して、インタープロフェッショナル教育の内容を考案するというパフォーマンス課題を与え評価する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別ニーズ教育の理論と実践	<p>特別なニーズのある子どもの教育をめぐる基本的課題と教育方法や研究方法について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。講義の内容は特定の障がい種への支援教育や重複障がいへの支援教育だけでなく、それらの教育に必要な医療体制、障がい理解、特別支援教育の理念なども含める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 山本 利和／1回) 特別支援教育の基本的課題と研究方法について解説し、教育実践に結びつける。</p> <p>(149 金森 裕治／1回) 視覚障がい教育に関する基本的問題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(58 井坂 行男／1回) 聴覚障がい教育に関する基本的問題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(154 今枝 文雄／2回) 知的障がい教育に関する基本的問題について考察するほか、特別支援教育と障がい理解のあり方について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(150 須田 正信／3回) 肢体不自由教育や情緒障がい教育、重複障がい教育に関する基本的問題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(116 平賀 健太郎／2回) 病弱教育に関する基本的問題について考察するほか、特別支援教育と健康行動学の関わりについて考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(145 三盃 亜美／1回) 発達障がい教育に関する基本的問題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(59 富永 光昭／1回) 特別支援教育とユニバーサルな授業づくりのあり方や方法について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(152 大内田 裕／1回) 特別支援教育と医療体制の関わりについて考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(60 西山 健／2回) 特別支援教育における今日的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
学校実習科目	基本学校実習 I	<p>本科目では1回当たり5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 勤務する学校や教育委員会において、学校課題を解決しようとするリーダーの諸活動を対象にして、専門職としていかなる専門性を有し、活動を展開しているかについて、観察やその仕事の一部に携わることをとおして、全体像を再確認させる。その際には、共通科目における講義等で提示した視点を活用させる。次いで、多様なマネジメント的活動の中から受講者それぞれに追究すべき課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り広げさせる。さらに、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理して、他の受講者と共有させる。</p> <p>【学部卒院生】 免許種に対応する実習校において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象にして専門職としていかなる専門性を有し、活動を展開しているかについて、観察やその仕事の一部に携わることをとおして、全体像を再確認させる。その際には、共通科目における講義等で提示した視点を活用させる。次いで、多様な授業開発活動の中から受講者それぞれに追究すべき課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り広げさせる。さらに、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理して、他の受講者と共有させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基本学校実習Ⅱ	<p>本科目では1回当たり5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 勤務する学校や教育委員会において、学校課題を解決しようとするリーダーの実際の一つの活動の一部または全部を担わせ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、「実践課題研究Ⅰ」のテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 免許種に対応する実習校において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の実際の一つの活動の一部または全部を担わせ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、「実践課題研究Ⅰ」のテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p>	
	基本学校実習Ⅲ (特別支援)	<p>共通科目で履修した視点を活用しながら、実習先の特別支援学校において、その現状と課題を調査・理解させ、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象に、専門職としていかなる専門性を有し、活動を展開しているかについて、観察や教育活動の一部に携わることとおして全体像を再確認させる。次いで、学校での多様な活動の中から受講者それぞれに追究すべき研究課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り返させる。また、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理させるとともに、リフレクション・ミーティングを実施して理論と実践の往還を図らせ、その成果を全体リフレクション・ミーティングで報告させる。</p>	
	基本学校実習Ⅳ (特別支援)	<p>共通科目で履修した視点を活用しながら、実習先の特別支援学校において、その現状と課題の理解を踏まえ、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象に、実際の活動の一部または全部を体験させ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。次いで、学校での多様な活動の中から受講者それぞれに追究すべき明確な研究課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り返させる。また、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理させるとともに、リフレクション・ミーティングを実施して理論と実践の往還を図らせ、その成果を全体リフレクション・ミーティングで報告させる。</p>	
	発展課題実習Ⅰ	<p>課題研究科目で設定する自らの課題に則した実習を行うものであり、実習校としては、基本学校実習と同様の附属学校、併設校、連携協力校において実施する。各自の「実践課題研究テーマ」に沿って、研究を追究するために適切な実習先を選択するとともに、実習中に必要な活動を具体的に計画し研究を遂行する。多様な教育現場を体験するための特別プログラムとして、連携協力校以外の機関において、行政研修、他校種、他機関、他地域、海外などの実習を選択し、当該科目の一部を代替できるものとする。なお、本科目では1回当たり7.5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 第1、2 Semesterでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、勤務する学校や教育委員会の組織課題を解決するための取り組みに、勤務校の管理職と調整をしながら、着手させる。そして、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱのテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 第1、2 Semesterでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、免許種に対応する実習校における具体的な教育実践の開発に関わる課題に対して、実習校の管理職等と調整を経たのち、独自の工夫を加えた解決を試み、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱのテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発展課題実習Ⅱ	<p>本科目は発展課題実習Ⅰに続く実習としてその内容をさらに深めるための科目である。課題研究科目における「実践課題研究テーマ」を追究するために適切な実習先を選択するとともに、最終となる実習中に必要な活動を具体的に計画し、研究を完成する。多様な教育現場を体験するための特別プログラムとして、連携協力校以外の機関において、行政研修、他校種、他機関、他地域、海外などの実習を選択し、当該科目の一部を代替できるものとする。なお、本科目では1回当たり7.5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 第3セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、勤務する学校や教育委員会の組織課題を解決するための試みを、発展課題実習Ⅰの経験を踏まえて改善させ、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱの理論研究の成果とも関連づけて発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 第3セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、実習校や教育委員会の具体的な教育実践の開発に関わる課題に対する独自の工夫を加えた解決の試みを、発展課題実習Ⅰの経験を踏まえて改善させ、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱの理論研究の成果とも関連づけて発表させ、相互批評させる。</p>	
	発展課題実習Ⅲ (特別支援)	1回生での理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験の往還を踏まえながら、実習先の特別支援学校において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象に、その中の教育活動の一部または全部に参加させ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。次いで、受講者それぞれが追究すべき明確な研究課題について、調査や実践を繰り返させる。また、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理させるとともに、リフレクション・ミーティングを実施して理論と実践の往還を図らせ、その成果を全体リフレクション・ミーティングで報告させる。	
	発展課題実習Ⅳ (特別支援)	発展課題実習Ⅲの経験を踏まえて、実習先の特別支援学校において、多様な教育活動に参加させ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。次いで、学校課題に対し、その対応策を考察し、独自の工夫を加えた解決を試行させるとともに、受講者それぞれが追究すべき研究課題をより明確にさせ、調査や実践を繰り返させる。また、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理させるとともに、リフレクション・ミーティングを実施して理論と実践の往還を図らせ、その成果を全体リフレクション・ミーティングで報告させる。	
スクー ルリー ダー シ プ コ ー ス 科 目	コース 共通 科目	学校づくりの中核を担うスクールリーダーの役割と行動を学ぶ。リーダーシップの基礎理論、リーダー行動の分析、組織文化の形成などをテーマとする。実践事例やケース教材を基に、スクールリーダーの役割、リーダー行動について多元的に理解し、具体的な行動を考えることを通して、スクールリーダーシップの基礎を培う。なお、本科目で対象とする「学校」は、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校である。	
	エビデンスベースの 学校改革	<p>これからの学校管理職や教員は、エビデンスに基づいたコミュニケーションを創出し、それらをチームとして学校内外を組織的に動かすために活用しなければならない。本講義では、Institutional Researchの基本手法、カリキュラム・マネジメントや学習の形成的評価のための基本的統計的手法を、事例に即しながら、体系的かつ実践的に学ぶ場を提供し、そうした手法を現職教員が所属する学校・園に適用できるように導く。</p> <p>(1 木原 俊行・7 庭山 和貴)</p>	共同
	管理職 プログラ ム科目	<p>学校の診断・評価をふまえて学校の戦略を構想し、学校のビジョン・経営計画を作成するマネジメントのあり方を考える。学校づくりのマネジメント・サイクルについて学び、実践方策を考える。学校戦略を支える学校の機能・役割についても基本的な理解を深める。</p> <p>(4 田村 知子・39 佐々木 靖)</p>	共同
	学校組織開発	<p>主要な学校組織論を理解し、組織実態を分析し、組織開発のあり方を考える。学校づくりの実践事例を取り上げて、組織開発を実践的・理論的に考えていく。さらに、中長期的視点から学校組織の成長・停滞・衰退という発展段階についても検討していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践的リーダープログラム科目	チーム学校の実践的展開	教師と他の専門家、学校と学校外組織の連携について、「チームとしての学校」の考え方に基 <sup>つ</sup> き、実践的に検討する。特に、外部リソースの確保と活用、その持続的発展について、所属校等の実態分析や改善方策の策定に着手する。	
	学校におけるコーディネーション	学校における教員間の協力や連携について、理論的・実践的に検討する。それらの概念の発展を確認するとともに、その類型や典型事例を考察する。また、その充実に資する実践的リーダーシップ及びコーディネーターの役割 について検討することで、「スクールリーダーシップの理論と実践」の内容を深め、学校での具体的な活用方法を考える。  (2 家近 早苗・33 餅木 哲郎)	共同
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	心理社会的発達の視点から、近年の児童生徒の現状と課題および、問題行動等の理解を深め、児童生徒理解とそれに基づく組織的な対応について論議する。教育課題の解決に向けた具体的な対応については、問題をかかえる児童生徒への個別の対応とあわせて、グループアプローチを用いた予防開発的な指導援助について学ぶことができるよう展開する。	
	校内研修の持続的発展	校内研修の企画・運営に関する理論と実践の融合を目指す。まず、わが国の校内研修の特徴や課題について歴史的視点、国際比較の視点をふまえ考察する。また、校内研修の企画・運営に関するモデルに基づき、その手続きを整理する。その際には、モデルを用いた、事例分析にも着手する。最後に、受講者自身がたずさわってきた校内研修を点検・評価する作業、その改善プランを作成する活動を通じて、校内研修の企画・運営に関する学術的知識と実践的知識の統合を図る。	
教育委員会指導主事プログラム科目	学校に対するコンサルテーション	本講義では、学校に対して外部から助言を繰り広げる（コンサルテーション）ための視点と方法の会得を目指す。コンサルテーションの概念を整理するとともに、そのモデルを会得する。次いで、コンサルテーションの実際について事例研究に取り組む。さらに、ある学校で実際に営まれている校内研修について、その改善プランを策定する活動を展開する。  (1 木原 俊行・34 長谷川 和弘)	共同
	行政研修の体系と実践	教育センター等で営まれている行政研修について、まず、文献や各種資料を参照して、その体系や実施上の手続き及び制約（予算、施設設備、参加者等）を整理する。その後、行政研修の事例を題材にして、その特徴と課題を多角度的に分析する。そして、それらによって得られた行政研修の企画・運営に関する知見をもとに、受講者が協働して行政研修のプランニングに取り組む。	
	学校支援のための施策展開	各教育委員会が学校支援のためにどのような事業を企画・運営しているか、その動向を整理する。また、いくつかの施策を取り上げて、その背景や経緯をまとめるとともに、その特徴と課題を明らかにする。さらに、大阪における学校支援のために必要な施策を構想する。	
グローバルスクールプログラム	グローバル時代の教師	グローバルスクール・リーダーとして理論知と実践知を獲得するため、(1) 国際社会の動向と世界のグローバル教育、(2) グローバル教育の概念、プログラムとその評価 (3) 国際バカロレア、ユネスコスクール、SGH指定校のカリキュラムや運営についてについて考察する。(4) 国内外の文献・データを収集し批判的に分析する。その上で、「グローバル教師21世紀型スキル育成」の指標を作成する。  (3 柏木 賀津子・32 田中 満公子)	共同
	グローバルリテラシーの育成	異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する教師としての資質やスキルを身に付ける。(1) 国内外のPISA型学力の文献やデータの分析、(2) 英語等もちいた幅広い表現力、ディスカッション、(3) 異教科・異専門連携のCLIL授業・国際バカロレアWS方法について学び、コロキウム運営を計画する。演習全体の自己省察と他者変容について量的・質的研究を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目 メディア・情報リテラシー教育プログラム 科目	グローバルプログラムの開発	グローバルマインド育成プログラムを企画・運営できる教員を育成する。「グローバルマインドの育成」の指標を実際に活用し、アジア等の海外教育機関と連携したグローバルマインド育成プログラムの協働開発を行う。実際に現地でのインタビューや授業実践を行う等、21世紀の地球上で起こる教育問題や貧困問題などの課題を解決するプログラムデザインを開発し実行する。これらプログラム開発全体の可能性や効果について、質的研究法を用いて実証的に省察する。自治体教育委員会などとの成果共有を行う。	
	授業におけるICT活用の理論と実際	学校現場のタブレット端末を中心とするICT機器の導入は、近年予想をはるかに超えて急速に進んでおり、教員自身の活用能力の習得と授業実践における活用の両面で喫緊の課題となっている。本講義は、「ICT活用の授業研究」をテーマにして、政策の最新動向、カリキュラムや実践の最新動向を、諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としてのICT活用の資質を実践的に習得することを目的とする。	
	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	ユネスコはMedia and Information Literacy (MIL) の概念を打ち出し、従来メディアごとに構想されていたリテラシー教育を融合させる必要と、その具体的習得プログラムを、教師教育用に提唱している。本講義では、こうした世界的動向に立脚して、これからの教員が保持すべきMILを、理論的、体験的に学び、児童・生徒の指導に活かす基礎的資質として、あわせて新学習指導要領を展開に資する資質として習得することを旨とする。	
	メディア・情報教育の企画・運営	本講義では、「授業におけるICT活用の理論と実際」および「メディア・情報リテラシー教育の実践的展開」で習得した内容を、校内研修や教育センターの研修を通して、他の教員に習得してもらうために必要な研修デザイン、ファシリテーション手法を学ぶことを目的とする。そのために、実際の研修を企画・実施・評価するといった実際的なし模擬的な研修体験を組み込み、受講後には研修担当者として活動できる程度の資質・能力を育成する。	
援助ニーズ教育	協働的援助の理論と実践	昨今の教育現場の状況は、深刻なケースが増え、教員一人の力量では子どもの援助が難しい場合も多くなってきた。こうした状況の中で学校においてはチームで対応することが求められている。この授業では、協働的援助（チーム援助）の理論と実践、子どものアセスメントについて講義と演習から考えていくことにする。そして、援助の効果を把握するために統計的なデータを活用しながらエビデンスに基づいた教育実践について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践コース科目	社会環境と子どもの心身の理解	<p>この授業では、社会的な環境の変化についてまず概観し、その変化が我が国の子どもにどのような影響を与えているのかについて明らかにする。そして、まずは、①具体的な経済状況、社会状況の変化が子どもの育ちや学校の状況にどのような影響を与えたかについて考察し、次に②こうした課題を子どもの側から把握し、適切な援助者とともに協働しながら、子どもを援助していくための基礎知識を学ぶ。そして、③受講生が学校現場で出会った子どもの具体的なケースから、状況を把握し、援助するための援助方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 庭山 和貴・109 野田 航／1回) (共同) 授業の進め方の説明とともに、課題を提示する。</p> <p>(7 庭山 和貴／5回) 子どもの身体的・心理的問題行動のケーススタディについて考察する。例えば、家庭環境と学習面の課題を持つ子どもや家庭環境と対人関係面の課題を持つ子ども、貧困の課題のある子ども、虐待の疑いがある子どもの理解と援助について考察し、教育実践に結びつける。また、社会環境の変化と子どもの援助について、まとめの討論を行う。</p> <p>(94 新崎 国広／5回) 社会環境の変化の現状分析を行うとともに、学校ソーシャルワークの実際について、ソーシャルワークの鍵概念と子どもの援助ニーズやソーシャルワークの視点からみた子どもとその家族のアセスメントを中心に考察する。また、行政や福祉関係の担当者と学校の関連についても考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(109 野田 航／4回) 子どもの心身のアセスメントやケースフォーミュレーションと支援について考察し、子どもの発達とメンタルヘルスについて、不安・うつ・攻撃性を中心に考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	<p>幼児期から青年期までの発達を理解するための基礎的な理論枠組みと方法論を解説するとともに、学校教育および発達支援の実践的課題と関連づけながら議論する。前半では発達理解の基礎を資料をもとに解説し、後半に子どもの援助ニーズを発達の視点から理解し、支援につなげる手立てを学ぶ。授業計画では、認知発達・言語発達・社会性の発達など、心理学における研究領域をある程度わけているが、実際の発達過程とその支援は全人的・総合的な側面をもつため、特定の領域に限った議論ではなく、むしろ諸領域を総合的に理解する形で進めることとなる。期末課題では、これらの知識の定着とその応用力を問う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 庭山 和貴／7回) 発達を評価するアセスメントの考え方や検査の概要について解説した上で、発達に課題のある子どもや学習面で困難を抱える子ども、言葉の理解・表出に困難を抱える子ども、対人関係に困難を抱える子どもなどへの支援について考察する。また、支援計画の立て方、効果検証、および改善計画の立案について考察する。</p> <p>(57 高橋 登／4回) 認知・思考の発達や言語発達に関する理論を解説し、実践的課題と関連づけながら議論する。</p> <p>(114 小松 孝至／4回) 社会的発達や自己の発達に関する理論を解説し、実践的課題と関連づけながら議論する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
いじめ・不登校・問題行動対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	<p>いじめの構造・過程、不登校の現状、そして問題行動の理論的背景について解説する。いじめは加害側と被害側のみの問題ではなく、観衆・傍観者も含む集団問題である。不登校は、学習面の躓き、いじめ被害、対人関係の困難さなど様々な側面に気を配る必要がある。問題をかかえる子どもには、表に現れている行動だけでなく、愛着の形成、対人関係の課題、学習の課題に留意する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 戸田 有一／7回) いじめの定義とその取り組みの歴史を解説し、いじめの発見の方法と援助、いじめの予防プログラム、ネットいじめと関連する問題、いじめを予防する取り組みなどについて考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(52 牧 郁子／8回) 不登校の現状や事例に基づく対応の実際を解説した上で、タイプ別に考える不登校(葛藤のある不登校と葛藤のない不登校)、問題行動の現状、仕組みと対応を考察し、不登校・問題行動を予防する方法を検討し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
	学校危機における援助ニーズ	<p>学校における危機、その予防と対応について論じながら、トラウマ体験からの回復に向け、援助ニーズの観点から支援と実践のあり方について理解が進むように講義する。三段階の予防の考え方をもとに、危機を予防、回避、影響を緩和するための一次予防、危機時の即時対応についての二次予防、中長期の回復と再発防止に向けた三次予防の理解をすすめる。トラウマ・インフォームド・ケアのフレームワークをもとにして、支援ニーズについて再認識する。</p>	
	予防的な関わりと協働的援助	<p>いじめ、不登校、学校危機をどのように予防するかについて考える。予防的な関わりは、子どもの援助ニーズの大きさにより、1) 集中的なケアが必要な子ども、2) 個別的で予防的な関わりで援助できる子ども、3) 学級や学年全体への予防プログラムに参加することで効果が期待できる子どもの3層構造で捉える。子どもの発達や適応を促進するような予防的・開発的なプログラムを学校現場のニーズを踏まえて実践し、その効果を検証する。そして、こうした予防的な関わりを協働的な援助に結びつけていく。</p>	
子どもの障がい・健康課題対応プログラム	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	<p>教職員が身体障がい、知的障がい、発達障がい等の多様な障がいのある子どもや、現代的な健康課題のある子どもを理解し、適切な指導と必要な支援を行うための理論と知識を取り扱う。障がい特性や健康課題のある子どもを支援するために、主として子どもの内的要因に着目し、個別の子どもの援助ニーズに応じた学校教育活動のあらゆる場面を想定した具体的な方策を思考する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 庭山 和貴／10回) 身体障がいや知的障がい、発達障がいのある子どもの特性とその支援について考察する。また、肥満・痩身、生活習慣の乱れなど現代的健康課題のある子どもへの支援について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(109 野田 航／5回) 限局性学習症など発達障がいのある子どもの特性について解説し、知的障がい、発達障がいのある子どもへの学習面での支援について考察する。また、現代的健康課題のある子どもへの支援について、メンタルヘルスを中心に考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(7 庭山 和貴・8 平井 美幸／3回) (共同) 現代的健康課題のある子どもへの支援について、メンタルヘルスを中心に考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス・共同(一部)
	メンタルヘルス課題の理解	<p>子どものメンタルヘルス上の課題に関する理論や知識を取り扱う。まずは、子どもの精神発達を理解した上で、予防医学的な観点から日常の精神的健康を保つためのストレスの対処法や対人関係、生活での留意点などを学ぶ。さらに、様々な児童思春期に見られる精神疾患、発達障がい、虐待・PTSDなどの知識を習得する。そして、学校でしばしば問題となってくる不登校、いじめ、自傷・自殺、問題行動などあらゆる子どもの援助ニーズとも関連づけるとともに、子どもを支える保護者や教職員のメンタルヘルスについても理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	共生社会をめざした協働的援助	<p>様々な子どもの個性や多様性を認め、その個性や多様性に応じた必要な支援や援助を、学校が中心的な役割を担いつつ、関係諸機関との連携のもとに提供していくことが求められている。関係者とのチーム援助に必要な知識や技能を学ぶとともに、多様性を有する子ども達が豊かな人間性を育み生きる力を身に付けていくためのPDCAサイクルに基づく個別の支援や援助方法についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(94 新崎 国広／5回) 協働的援助が求められる今日の背景と教育支援人材・教育協働人材、ICFの考え方や自己覚知のアセスメント、協働的援助を推進するためのフォーマル(行政・専門機関)・インフォーマルな社会資源について解説した上で、「貧困の連鎖を防ぐ～地域での子どもの居場所・学習支援～」、「コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の協働的援助」などの実践事例研究を行う。</p> <p>(109 野田 航／4回) 関係諸機関との連携のための学校内におけるアセスメントについて考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(7 庭山 和貴／6回) アセスメントに基づく関係諸機関との連携を含めた個別支援計画を作成し、支援の効果検証や支援を改善するためのデータに基づくチームとしての意思決定について考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
養護プログラム	養護実践の理論と方法	<p>子どもの多様な援助ニーズに対して、養護実践の理論に基づく具体的な支援方法を学修させる。学校教育活動や養護教諭の活動過程における養護実践について、個別の子どもの援助ニーズに応じた支援を養護教諭の専門職性をふまえて講義・演習する。また、養護実践を理論化、実証化する方法を取り扱い、根拠のある養護実践力の育成し、評価させる。</p>	
	子どもの疾病・傷害と援助ニーズ	<p>講義・演習を通して、医学や看護学の知見から、子どもの発育・発達段階に合わせた疾病や傷害の特徴とその課題を理解し、子どもの援助ニーズに応じたフィジカルアセスメントとケア及び処置の方法についての事例検討を通して実践的な知識及び技能を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(88 平田 久美子／10回) 社会復帰過程における疾患のある子どもと家族の援助ニーズや子どもの疾病についての理解と援助ニーズ、学校突然死についての理解と援助ニーズ、食中毒の理解と援助ニーズ、熱中症の理解と援助ニーズについて実践的に考察する。</p> <p>(131 橋弥 あかね／5回) 外傷を負った子どもの理解と援助ニーズについて実践的に考察する。</p>	オムニバス
	子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助	<p>子どもの心身の健康に対して、養護教諭が予防的な観点から子どもに関わり、協働的に援助する具体的な方法を学修させる。主として子どもの心身の健康に関する集団的保健指導を予防的な関わり、チーム援助・コーディネート・学級担任及び保護者など校内外の関係者との連携・協働を養護教諭の協働的援助ととらえ講義・演習し、子どもの援助ニーズとなる健康課題を未然に防ぎ、再発防止・学校適応までを支援する養護実践力を育成、評価させる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 平井 美幸／12回) 子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助の意義について解説した上で、子どもの心身の健康課題を見出す方法や養護教諭が行う協働的援助、協働的援助に関する養護実践の評価方法について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(130 大道 乃里江／3回) 予防的な関わりとしての集団的保健指導とその評価方法について考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
就学前教育プログラム	就学前の子どもの援助のための政策・システム	<p>就学前の子どもを大切に守り育てるために、近年、どのような政策とシステム構築が、地方自治体レベルで取り組まれているのかを概観する。保育・教育の連携と接続、地域住民や諸機関とのつながりの全体像を提示し、接続期のカリキュラムの先駆的な事例をふまえ、新しい時代の実践を構想する基礎を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(108 中橋 美穂／10回) 保育制度改革の動向や乳幼児期の育ちと教育・保育の必要性、幼稚園・保育所等の役割、自治体における就学前政策の取組みについて解説した上で、就学前の教育・保育現場での連携・協働や保幼小の連携・協働、教育・保育の専門職の育ちについて考察し、新しい時代の教育・保育の実践について構想する。</p> <p>(49 戸田 有一／5回) 自治体における就学前政策の取組みについて考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
	就学前の援助ニーズへの多様な支援	<p>発達や文化の多様性に配慮した共生保育及び子育て支援の先駆的な実践事例をふまえ、そのなかにおける子どもや保護者の姿及び保育者の専門性について共に学ぶ。これからの時代の共生保育の課題を見すえ、特に、互いを理解する「表現」に関する新たな実践を創造するための基礎を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 戸田 有一／10回) 発達や文化の多様性に配慮した共生保育及び子育て支援の先駆的な実践事例をふまえ、多文化に関する援助ニーズへの対応や発達に関する援助ニーズへの対応、保護者と乳幼児のかかわりに関する援助ニーズへの対応について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(105 加藤 あや子／5回) 発達や文化の多様性に配慮した共生保育及び子育て支援の先駆的な実践事例をふまえ、互いを理解する「表現」に関する新たな実践を行う。</p>	オムニバス
	就学前教育と福祉の協働	<p>今までも、保育者は、各家庭の事情がわかるがゆえに、保護者に寄り添い問題解決への支援をしてきた。そこに、ワークライフバランスや家族のあり方に関する識見と、ソーシャルワークを軸とした諸機関・専門家との協働を明確に位置づけることで、支援をより効果的にしていく基盤を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(108 中橋 美穂／12回) 保育園・認定こども園・幼稚園における子育て支援のあり方について考察するとともに、福祉施設との協働について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(132 小崎 恭弘／3回) ワークライフバランスを支える保育と働き方や児童福祉とソーシャルワークについて考察した上で、福祉施設における支援のあり方や福祉と幼児教育の協働について考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
天王寺キャンパス開講	学習開発研究 (国語)	<p>実践事例にもとづきながら、音読・朗読の指導において学校教育の現場が直面している問題状況を講義し、指導者の力量形成の問題に焦点化して、音読・朗読の実践を受講者に課し、その評価をめぐって、議論を展開する。</p>	
	学習開発研究 (算数)	<p>広く大学教養程度に至るまでの算数・数学についての理解を深め、その教育実践を執行するに当たり、中心的役割を果たすに相応しい能力を養い、結果として数学教育学の実践的指導者・研究者となることを目標に講義を進める。特に、代数的・幾何的・統計的領域において、相互における関連や学習内容の発展についても考察し、理解を深め、より高度な目標達成を探る。尚、目標達成のために本講義では、演習・発表も多く取り入れる予定である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科関係科目	学習開発研究 (音楽)	音楽教育哲学の一般的課題は、音楽教育の本質と意義を明らかにすることにある。そのためにはまず、音楽の本質と意義を明らかにしなければならない。これに関してはこれまで大きく2つの立場、すなわち「認識の立場」と「行為の立場」が採用されてきた。前者は音楽教育の学習・指導目標を「知ること」に焦点化し、後者はそれを演奏、即興といった音楽行為の充実に置く。本演習のねらいは、両立場を比較検討しながら、「認識の立場」に偏っていると思われる音楽教育観の問題点を考察、「行為の立場」から音楽教育論を展開する必要性について議論することである。	
	学習開発研究 (図画工作)	生涯教育へとつながる図画工作や美術教育の役割や実践課題について解説し、子どもたちの造形表現活動をより豊かなものにするために、伝統工芸をテーマに実習および教材研究を通して、技術力と応用力、実践力の育成を目指す。	
	学習開発研究 (体育)	体育科の目標・内容・評価の方法論について学習し、子どもの発育・発達を助長する体育の授業方法について考察する。	
	学習開発研究演習 (国語)	近代国語科教育の歴史をふりかえりながら、多角的な視点から国語科教育実践をとりあげ、今日の国語科教育のあり方について具体的に考察する。	
	学習開発研究演習 (英語)	最新の「第2言語習得理論 (SLA)」について文献を購読し、「小学校外国語科」「小中連携の外国語科」について授業開発と授業作りを行う。 1) 文構造への気づき、2) 他教科の内容を活用したCLIL (内容言語統合型学習) 3) 音韻認識とフォニックス指導、4) 中学校の英語4技能を統合した指導についても扱う。 また、英語をもちいて海外で授業を行う短期海外研修への示唆について触れる。	
	学習開発研究演習 (算数)	算数・数学の学習内容を、数学を土台とし発展的にとらえ演習を混じえ理論的に考察する。	
	学習開発研究演習 (音楽)	学習開発研究 (音楽) を踏まえ、音楽科の教授・学習理論を実践化する方途を探る。	
	学習開発研究演習 (図画工作)	学校教育、社会教育現場における子どもの造形表現活動からテーマを設定し、子どもたちの造形表現活動を豊かにするためのカリキュラム・指導法について考察する。	
	学習開発研究演習 (体育)	学習開発研究で開発した学習教材を用いて授業実践した場合の効果と学習教材としての有用性について考察する。	
	教科内容開発研究 (英語)	関連法規や理論等に関する講義等を通して外国語学習理論・教授法等に関する知識を身につけるとともに、小学校外国語活動教材などに基づき、授業案を作り、必要に応じて橋座開発を行い、それらに基づいて授業を展開することができる指導技術を身につける。	
	教科内容開発研究 (社会)	社会科の教科内容に関する学術的な諸論文を講読する。受講生自らが講読する論文を見付け出し、レジュメに要約をまとめ報告し、自分の見解を述べる。ディスカッションを通じて、社会科の在り方を考えていく。	
	教科内容開発研究 (理科Ⅰ)	理科物理分野の内容及び指導方法における国内外の研究成果を取り上げ、現状と課題並びに改善方法について検討する。 アメリカで物理教育研究の成果に基づいて開発されたテキスト“Tutorials in Introductory Physics”や“Physics by Inquiry”、イギリスの“Thinking Science”などの実践例をもとに、物理教育でどのようにアクティブラーニングを実現していくのかを検討する。	
	教科内容開発研究 (理科Ⅱ)	理科生物学分野において学ぶ生命科学の進歩が、人や人間社会に与える影響が問題となっている。また人間の活動が、環境や動植物に与える影響も問題となっている。それらの基礎を学ぶとともに、授業でどのように取り扱うかについて検討する。	
	教科内容開発研究 (理科Ⅲ)	理科地学分野の内容及び指導方法における最新の研究成果を取り上げ、現状と課題並びに改善方法について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教科内容開発研究 (音楽)	音楽が反映するものは、言葉が反映するものより広範囲に及ぶ。自然の法則・人体の機能・精神活動その他理論に留まらず、各自の課題における実践的表現力の獲得を目指す。	
	教科内容開発研究演習 (英語)	関連領域の先行研究の成果を概観し、研究デザイン、タスク、結果の解釈を掘り下げながら、外国語教育・学習について議論する。	
	教科内容開発研究演習 (社会)	社会科の単元を取り上げ、受講生各自がテーマを設定し授業づくりを行う。指導案の作成と模擬授業の実施、批評会を通じて「授業力」を身に付け、高めていく。	
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅰ)	理科物理分野の内容及び指導方法を実験や教材作製等を通して検討する。幼・小・中・高への接続、幼児期・低学年期の科学教育、他教科との合科的指導方法、さらに小学校でのプログラミング教育をどのように物理教育の中で実践していくかについての知見を深める。	
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅱ)	理科生物学分野の野外観察の指導方法等について、演習や実習を通して検討する。	
	教科内容開発研究演習 (理科Ⅲ)	理科地学分野の内容及び指導方法を演習や実習等を通して検討する。	
	教科内容開発研究演習 (音楽)	種「こえ」の獲得。話し声・歌声、楽器の音、さらには表情、からだの動き、立ち姿・・・自分の思いを他者に伝え他者と共有するために用い得るあらゆる手段を駆使し、人前(教壇・プレゼン・会合etc.)に立った時に「おもしろい」を惜しまず出し切るスキルを実感する。	
教育実践力 コース科目	コース 共通科目		
	教育実践の研究方法	前半は講義および演習により、教育実践の研究方法について理解し、修得する。後半はその手法を用いた実践場面分析に取り組む。 (12 峯 明秀・14 石川 聡子・19 佐藤 賢司・10 成實 朋子・9 土山 和久・25 箱崎 雄子・26 橋本 健一・11 水野 恵司・27 真野 祐輔・13 瀬尾 祐貴・15 鈴木 康文・16 永富 一之・17 井上 功一・18 鈴木 真由子・28 田中 龍三)	共同
	協働的プロジェクト演習	校園種や教科領域の専門が異なる院生の3~5名程度のチームで、園などでの総合的な活動や、学校での総合的な学習の時間の授業設計等につながる学習プロジェクトを計画・実践する。 (12 峯 明秀・14 石川 聡子・19 佐藤 賢司・10 成實 朋子・9 土山 和久・25 箱崎 雄子・26 橋本 健一・11 水野 恵司・27 真野 祐輔・13 瀬尾 祐貴・15 鈴木 康文・16 永富 一之・17 井上 功一・18 鈴木 真由子・28 田中 龍三)	共同
	カリキュラム・マネジメントの展開	共通科目「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」や選択科目群の学修成果や各自の研究テーマへの取り組みなどを生かし、3~5名程度のチームでカリキュラム・マネジメント構想を作成し、全体で共有・議論し、成果をまとめる。 (12 峯 明秀・14 石川 聡子・19 佐藤 賢司・9 土山 和久・25 箱崎 雄子・27 真野 祐輔・16 永富 一之・17 井上 功一・18 鈴木 真由子・28 田中 龍三)	共同
	Eラーニング	Eラーニングシステムの基礎 (情報機器、ソフトウェア、ネットワーク) と各種応用事例、ならびに、システム構築の基本 (企画・要件定義、設計・試作、評価、管理・運用) について、利用者の立場から、デジタル学習環境を活用した学習と討論を行う。 また、各種の教育活動を念頭において、デジタル学習環境の利用効果が高いと思われる具体的な課題を選定し、その課題解決に最適なEラーニングシステムの企画・立案、マルチメディア教材の試作、システム構築と運用・管理について実践的な演習を行う。	
	国際教育比較実践交流	次の3つのトピックについて、講義、グループワーク (日本との比較という視点から資料分析と討論) を行う。 1ドイツの教育制度と改革:PISAショック、コンピテンシー中心の学び 2クラスにおける非同質性の問題:移民の背景を持つ子どもたち、ドイツ語教育 3歴史教育:負の遺産、記憶の文化	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合的学習の 開発と実践	幼児教育を基盤とし、高等学校にまで至る探究的な見方・考え方についてのシーケンスとスコープについての理解、主として平成10年度以降の総合的な学習の実践記録や授業ビデオの分析、現代的な課題に対応して求められる資質・能力を培う総合的な学習のカリキュラムの研究と開発を行う。	
選択科目 A群	カリキュラムデザイン 演習A～C (言語と文化) (個人と社会) (科学と数学) (身体と表現)	共通科目「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の修得をうけ、効果的な年間指導計画等の在り方等を追求し、校種間接続なども視野に入れながら、学校の特性や課題に応じた教科領域に関するカリキュラムを設計する。また、カリキュラムの評価・改善の方策について、具体案を作成し検証する。カリキュラムの設計・評価・改善にあたっては、「授業研究演習」「教材・題材開発研究」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
	カリキュラムデザイン 演習(言語と文化) A	学校教育における「言語と文化」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、国語科カリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が国語科に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインに取り組み、授業の具体的方途について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(言語と文化) B	学校教育における「言語と文化」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、英語のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が英語に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(個人と社会) A	学校教育における「個人と社会」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、ESDの構成概念に基づいた家庭教育カリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身がSDG'sと生活をつなげた家庭教育に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(個人と社会) B	学校教育における「個人と社会」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、社会系教科のカリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身が個人と社会に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(科学と数学) A	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、理科のカリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身が理科に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(科学と数学) B	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、中学校技術・家庭科技術分野のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が中学校技術・家庭科技術分野に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(科学と数学) C	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、算数・数学のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が算数・数学に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(身体と表現) A	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、音楽的思考を伴う表現及び鑑賞のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が音楽的思考を伴う表現及び鑑賞に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン 演習(身体と表現) B-a	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、造形表現のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が造形表現に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
カリキュラムデザイン 演習(身体と表現) B-b	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、書写書道のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が主に芸術書道に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	カリキュラムデザイン演習（身体と表現）C	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、体育・保健体育のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が体育・保健体育に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
選択科目 B群	授業研究演習A～C （言語と文化） （個人と社会） （科学と数学） （身体と表現）	教科領域の授業を研究的に捉えるための理論と方法を習得し、単元の指導計画の作成・授業実践・研究的授業分析・授業改善につなげる。授業実践・授業分析にあたっては、「カリキュラムデザイン演習」「教材・題材開発研究」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進めるとともに、教科教育の学会や地域の教育研究会などの研究会を積極的に活用し、授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。	
	授業研究演習（言語と文化）A〔国語〕	小学校、中学校で使用されている国語教科書を分析対象に、国語教材がその学習指導の過程において、どのような学力形成のための系統性を備えているのかを明らかにするとともに、教材間のつながりを意識した国語科授業を構想する。	
	授業研究演習（言語と文化）B〔英語〕	4技能5領域および文法・音声・語彙などの言語材料の指導法について概説、実践するとともに、学習指導案の作成、授業の記録・分析方法について理解と実践的活用を進めていく。	
	授業研究演習（個人と社会）A〔家庭科〕	家庭科の授業に関する諸課題について、各自の課題に基づき実証的に考究する。  (90 大本 久美子・153 加賀 恵子)	共同
	授業研究演習（個人と社会）B〔社会a〕	本授業では授業分析の方法とその教育的価値を理解するための事例研究をおこなう。それらのことを通して、授業記録作成のための要件を理解し、授業記録作成に有為に用いることのできる撮影・録音の技術的留意点に気づく。さらに、逐語記録作成上の留意点を踏まえて、実際の授業記録を作成し、その記述を用いた考察をおこなうことで、授業分析の手法を体得し、教育実践の改善に資する授業研究方法を体得することをめざす。	
	授業研究演習（個人と社会）B〔社会b〕	社会科授業づくりの理論と実践について学ぶ。社会科における教材の選択と構成、学習課題と学習活動のデザイン、学習評価と授業改善の方策について、文献の購読と授業実践の検討を通して基本的な理解を身につける。	
	授業研究演習（個人と社会）C〔道徳〕	「特別の教科 道徳」で求められる指導方法について、前半では多様な指導方法について理論的に概説し授業づくりを行わせることで、多様な指導方法に関する理解と技能を向上させる。後半では前半での学習をふまえ、「情報モラル」「生命尊重」「校種間連携」等の現代的課題に応える道徳授業について分析・立案を行い、授業研究能力の形成を図る。  (オムニバス方式／全15回)  (54 金光 靖樹／7回) 情報モラルの授業構造や生命尊重の授業分析、校種間連携と道徳授業について考察した上で、それぞれ指導案を作成し検証する。  (113 小林 将太／8回) 「特別の教科 道徳」における多様な指導方法を考察した上で、自我関与中心の学習を生かした授業づくりや問題解決的な学習を生かした授業づくり、体験的な学習を生かした授業づくりを行う。	オムニバス
	授業研究演習（科学と数学）A〔理科〕	理科の授業研究の手法である質的調査法や量的調査法の基本を具体例とともに理解し、実際の授業改善に授業研究手法を取り入れて試行させ、授業研究のスキル形成と見識を深めさせる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	授業研究演習（科学と数学）B〔技術〕	技術教育について教員として自身の授業を研究し改善する方法をとりあげ演習する。そのため、受講生の授業実践を具体例として、授業目標の明確化、教材研究、授業評価、改善について指導する。	
	授業研究演習（科学と数学）C〔算数・数学〕	<p>これまでに培った基礎能力を一層深め、専門分野や教育実践に関する理論と応用についての研究能力を伸ばすことによって、算数・数学の授業研究の方法について分析・考察し、議論することができるようにする。その上で、その内容をどう教えたらわかりやすいのかを考えることにより、数学的な能力と数学教育の理解を深める。授業実践・授業分析にあたっては、学会や地域の教育研究会などの研究会を積極的に活用し、授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（13 瀬尾 祐貴／8回） 算数科・数学科の授業分析の視点と方法について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>（78 柳本 朋子／7回） 数学科の教材研究を行うとともに、学習指導案を作成し検証する。</p>	オムニバス
	授業研究演習（身体と表現）A〔音楽〕	<p>授業分析によって、授業中の子どもの思考と表現の道筋を見る目をもてるようにし、そこで得た知見や視点および自らの研究テーマを基に授業デザインを行い、実践、検証することで、新しい姿の音楽科授業を創出できるようにする。</p> <p>（28 田中 龍三・134 兼平 佳枝）</p>	共同
	授業研究演習（身体と表現）B〔図画工作・美術〕	子どもの造形行為の評価について、近代の造形教育研究を概説する。また授業記録・分析方法の理解と実践的活用を進める。その上で、実際の授業評価・改善を子どもの造形行為の論理の視点で検討していく。	
	授業研究演習（身体と表現）B〔書道〕	小・中学校での国語科（書写）、高等学校での芸術科書道のつながりを、学習指導要領での位置づけから体系的につかみ、それぞれの学習目的を明確にし指導計画を立案する。その上で、單元ごとの教材分析から指導案の立案を行い、模擬授業につなげたり、現場での教科研究会に参加する等したりして、より具体的で児童・生徒の実態に応じた指導の在り方を考察する。	
	授業研究演習（身体と表現）C〔体育・保健体育〕	体育科・保健体育科の授業研究の視点と、授業研究を深めていく手順と方法について、授業実践をもとに掘り下げていく。加えて、授業研究のねらい・目的を明確に保つことの意義について理解を深める。	
選択科目 C群	教材・題材開発研究 A～C-a～d （言語と文化） （個人と社会） （科学と数学） （身体と表現）	児童生徒の資質能力の育成のための目標設定を起点に、教科領域の学習内容を先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
	教材・題材開発研究（言語と文化）A 〔音声言語表現〕	<p>談話を文字化資料化する方法と話体論的特徴について説明し、授業ごとに各種の観点からの小スピーチを行い、話体の特徴を捉える練習をする。</p> <p>授業参観を実施し、授業記録の文字化資料をもとに、教師の発問と子どもの応答の関連、学習者相互の発話等の言語活動についての分析と発表を行い、討論をさせる。</p>	
	教材・題材開発研究（言語と文化）A 〔文字言語表現〕	国語の文字言語表現領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。国語の文字言語表現分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究（言語と文化）A 〔古典文学〕	小学校、中学校、高等学校の国語教科書でとりあげられている古典文学作品について、語釈、解釈の作業を行い成果を発表する。また新しい授業を構築するための視点の獲得もねらう。国語科教科書における古典文学の扱いについて探求することもめざしているため、その作業に向けた準備学習、下調べを課す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教材・題材開発研究 (言語と文化) A [児童文学]	小中学校の国語教育分野領域の学習内容を踏まえ、国語教材として用いられている近現代文学、児童文学の中から代表的なものを複数取り上げ、それぞれに関する知識を深める。併せて先端の文学研究の論文を精読し、その知見を踏まえた上で、改めて教材分析を行い、新たな教材研究を行う。	
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [英語教育とICT]	コミュニケーション能力と英語運用能力を高めるためのICTを活用した教材作成の方法、および教材管理方法、学習履歴分析等の授業運営の効率化についての理論と実践を学ぶ。	
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [英文法・英作文]	英文法の原典から英文法の知識を読み取り、学校文法で教えられている知識と比較検討する。それにより、英語の授業で提供すべき英文法の内容や指導の在り方を検討する。それをもとにして、英語の授業における英作文の指導や教材作成に活かすための方策を考える。	
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [小学校英語]	初等英語教育研究の動向を探るとともに、学習方略、教授方法、教授資料の選定方法等について学び、小学校レベルにおける外国語教育のあり方を考究する。	
	教材・題材開発研究 (言語と文化) B [リスニング・リーディング]	「読む」「聞く」ということについて言語理解処理の観点から概観して、そこから得られる知見を基にリーディング・リスニングに関する教材・題材を開発するとともに、その指導をより効果的にする方法について検討する。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食育]	行政的な食育の概要と食に関する指導について、また、食行動の概要や食事の機能、国語や理科と家庭科をリンクさせる教材などについて実習も取り入れた授業を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食と健康]	食生活における現代的課題について、「栄養素および非栄養素」「健康」をキーワードに探究し、理解を深めるとともにディスカッションを行い教材・題材の開発を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [家族と保育]	現代社会における家族・家庭および保育やこどもを取り巻く環境とその関係性に関心を持ち、それらの事象の具体的な意味だけでなく歴史的な変遷などにわたり講義、討議を行う。受講者による発表の機会も設ける。また具体的なそれぞれの授業の場を想定した教材の活用や、実践的な授業を意識した演習などを取り入れた授業を行う。また保育体験として、保育所、子育て支援センターの見学を予定している。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [被服と生活]	家庭科被服領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を実験的要素を取り入れて開発研究する。被服分野に関する学習内容における実験の有効性を確認し、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) A [消費生活と環境]	学校教育における消費者教育と住教育について理解を深め、題材構成や教材を検討する。  (オムニバス方式/全8回)  (18 鈴木 真由子/3回) 消費生活と環境をめぐる問題状況及び基本的事項について考察する。また、まとめの総合討議を行う。  (90 大本 久美子/3回) 消費生活と環境に関する学習題材の構成について考察した上で、教材を開発し、開発した教材を用いて授業計画を作成する。  (95 碓田 智子/2回) 住環境と住まい・まち学習に関する学習題材の構成について考察した上で、教材を開発する。	オムニバス
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[いのち教育]	いのち教育の前提となる、社会や心性の変化を研究する。社会科の教科書や道徳の副教材を題材に、学校現場でのいのち教育の現状を把握する。いのち教育の教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[哲学]	哲学の基本問題を理解するとともに、教材・題材を先端的に開発研究する。テキストを精読しながら、参加者同士で議論していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[倫理]	倫理学と関連する社会科分野の学習内容をふまえ、教材・題材を先端的に開発研究する。倫理学の観点から社会科の学習内容を多面的・多角的に考察し、その成果を授業構成に活かすことができるよう教材研究を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[社会学a]	児童生徒が現代社会の成り立ちについて理解し、自分で考える能力を育成するため、社会学分野の考え方に基づいた教材・題材を先端的に開発研究し、検証する。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[社会学b]	児童生徒が身近な社会現象について自分で調べ、発表・議論する能力を育成するため、社会調査の考え方に基づく調べ学習の教材・題材を先端的に開発研究し、検証する。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[法と社会]	学校教育における社会・特に公民系科目は、法学系の知識を多く含んでいる。本授業では、日々社会に生起する出来事を法学的に分析し、その知見から教科書の内容を比較検討し、どのような問題関心より題材を扱えばよいのかを検討する。特に基本的な価値である民主主義と立憲主義、その関係については、重点的に考察する。また将来的重要性にかんがみ、公害・環境問題にも重点を置く予定である。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[歴史]	歴史分野領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。歴史分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[防災安全]	自然災害、犯罪被害、交通事故から児童生徒自身が身を守る能力を育成する教材開発を探求する。受講生が選択した地域に想定される自然災害、犯罪、交通事故の特徴を理解する。さらに、具体的防災、犯罪、交通事故情報を収集し教材化し、社会科および避難訓練、登下校安全指導などの活動に実践的に活用する練習を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[地誌]	この授業は、小・中・高の地理分野の中の地誌に関する学習内容を踏まえ、教材・題材開発に必要な基本的技能を身につけること、その知識や技能を活用して、地誌教材の開発研究ができるようになることを目的とする。そのために、まず、小・中・高の地誌学習に共通する特徴や、教材作成のために必要とされる基本的な技能を理解してもらう。その上で、受講生に具体的な地誌教材を作成してもらい、最後に、作成された教材の妥当性などについて検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) B[地図]	地理分野の学習内容について、デジタル機器を使用した地図教材を開発するための知識・技能を習得することを目的とする。授業の前半(第2、3回)では、地図教材の事例を紹介した上で、それらを作成するために必要なソフトウェアやWEBサービスを用いた実習を行う。後半(第4～8回)では、タブレット端末および電子黒板を用いて、受講生が作成した地図教材による模擬授業を行う。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳a]	道徳授業における絵本、文学作品、童話、新聞記事、視聴覚教材の使用のメリット、デメリット、注意点等について考究する。具体的には、作者の意図と作品の関係及びそれに基づいた道徳的価値の扱いを指導案の作成を通して学ぶ。	
	教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳b]	現代的課題に取り組む道徳教育に求められる教材について探究する。具体的には、各教科における学習内容と関連づけた道徳の教材開発を行うとともに、それを用いて模擬授業等を実施することで、開発した教材の可能性と課題を明らかにする。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [物理]	長年様々な物理教育教材が開発されてきた。近年、教材に関するアイデアは、どれもすでに過去にあったと思っただけで十分調べた方がよい。しかし、すでにあるアイデアに過去にはなかった技術(白色LED、コンピュータ、センサー、自動制御など)を取り入れ、目新しい教材として生徒や教員に楽しんでもらえるものを考案することは不可能ではない。この講義では、物理教育教材の調査を行い、自分のアイデアで新しい教材を開発する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [化学]	理科(化学)分野領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。理科(化学)分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [生物]	理科(生物分野)の生物教材を用いた実験観察を伴う単元をトピック的に取り上げ、その中から、受講生個々に課題意識を持って、生物教材に関する先端的な調査研究を行う。その結果を踏まえて、主体的に教材開発を実践し、その成果を発表し討論する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) A [地学]	小・中・高等学校で行われている地学関連の観察や実験に関して、主なものをピックアップして内容を復習検討し、問題点を洗い出して、より効果的で実施も容易な観察や実験の教材研究を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [木材加工]	技術教育における木材加工に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [金属加工]	技術教育における金属加工に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして開発を指導する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [電気]	技術教育における電気に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [情報]	技術教育における情報に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして開発を指導する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [栽培]	技術教育における栽培に関わる学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材園やICT機器を有効利用した教材・題材開発とその検証を行う。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) B [技術統合]	技術教育における各専門分野を統合した学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。  (16 永富 一之・127 成田 一人・83 篠澤 一彦・128 光永 法明・98 鈴木 剛)	共同
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [代数]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、その背景となる数学を、特に「代数学」の観点で先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [幾何]	小・中・高等学校の算数・数学の学習内容や方法を幾何学分野の領域に注目し、幾何学的な観点から概観する。得られた問題意識に基づいて、幾何学の研究と算数・数学教育への実践的な応用を試みる。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [解析]	まず、小・中・高等学校の算数・数学を一貫した教科として捉え、学習内容や方法を特に解析学分野の領域に注目し、現代数学の観点から概観し、必要に応じて専門的な理論を習得する。その上で授業実践・分析と習得した理論の往還・接続をはかりながら教材の開発研究を進め、さらには授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [確率]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、その背景となる数学、ここでは、特に「確率論」の観点で先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」及び「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [応用数学]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、算数・数学の学習内容や、その背景となる数学、ここでは、特に「応用数学」の観点で先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」及び「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [数学教育]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、算数・数学の学習内容や、その背景となる数学、ここでは、特に「数学教育学」の観点で先端的に研究する。その中で、学校数学では余り扱わない先端的な数学を取り上げ、教材化の方法論を研究する。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) A [作曲]	作曲に関する題材を開発する。音楽の本質を作曲を通じて考え探求することを目標設定として、学習内容を先端的に研究する。その課題意識に基づいた題材を開発し検証していく。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) A [指揮]	指揮に関する題材を開発する。音楽の本質を指揮を通じて考え探求することを目標設定として、学習内容を先端的に研究する。その課題意識に基づいた題材を開発し検証していく。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [美術鑑賞]	美術鑑賞の基本として、作品に関する資料の収集法や鑑賞法を習得する。また、デジタル機器を活用した教材の開発を実践的に行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [書鑑賞]	歴史の中で生まれた古典に対する鑑賞眼を養う。また、生活の中で見られる書を通して鑑賞力を養う。日本における書の伝統を衰退させないためにも書鑑賞の授業は必要である。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流1]	学術交流協定校等(海外大学)の学生と、芸術教育に関するワークショップや作品展示などを含めた学術交流を行い、成果をレポート・ポスターなどにまとめて発表する。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流2]	教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流1]での成果・課題の振り返りを行い、芸術文化の学習内容についてテーマを探求する。自国の芸術文化についての理解を深めると同時に、ヴィジュアルコミュニケーションの方法を探る。ビデオ通話などメディアを用いた海外の学校との交流授業開発、実施およびその検証を行う。  (オムニバス方式/全8回)  (138 渡邊 美香/4回) 海外との美術交流授業の事例を紹介・解説した上で、文化交流テーマを設定してその探求を行い、教材や題材を開発する。  (141 江藤 亮/4回) ビデオ通話などメディアを用いた海外の学校との交流授業を開発・実施し、その検証を行う。	オムニバス
	教材・題材開発研究 (身体と表現) B [映像・メディア教育]	図画工作・美術に於ける映像・メディア教育分野の教材研究・開発を行う。前半はタブレットコンピュータを活用したICT教材の先行事例の調査・分析。後半は既存のAppを活用した演習モデルの企画・立案を行い、ICTを活用した授業実践への道筋をつける。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [剣道]	剣道に関する教材・題材を開発する。保健体育科の武道の授業における剣道の特性を踏まえ、剣道の授業の組み立て方について、学習指導の道筋に則して明確にしていくとともに、剣道の“簡単な試合”の考え方、進め方を具体的に示していく。その過程を通して、剣道に固有の価値が他の運動の学習においても共有される部分が少なくないことの経験的理解を目指す。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [柔道]	柔道に関する教材・題材を開発する。保健体育科の武道の授業における柔道の特性を踏まえ、柔道の授業の組み立て方について、学習指導の道筋に則して明確にしていくとともに、柔道の“簡単な試合”の考え方、進め方を具体的に示していく。また柔道の安全な指導法について、事例を通して理解を深めていく。これらの過程を通して、柔道に固有の価値が他の運動の学習においても共有される部分が少なくないことを明示する。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [球技]	小学校のゲーム・ボール運動、中学、高等学校の球技の学習指導について、ゴール型、ネット型、ベースボール型の類型ごとの特質を踏まえ、球技の内容を、年間計画、各学年でどのように配列していくことが大切かを具体的に掘り下げる。加えて、単元の仕組み方、学習集団の編成の仕方等についても実践的に掘り下げていく。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [器械運動]	器械運動に関する教材・題材を開発する。器械運動領域の学習内容を踏まえ、今日においてもなお根強く残っている勘違いの内容について知るとともに、技の指導方法についての理解を深める。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [保健]	学習指導要領の体育科・保健体育科における保健に関する学習内容を教科内容学的、教科教育学的視点から解説する。また、保健学習領域の学習内容を先端的に研究する。その上で、保健学習の課題・意義に基づいた教材・題材を開発し検証する。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [健康・体力]	健康と体力に関する教材・題材を開発する。健康と体力との関係に焦点をあて、発育・発達や生理学的観点から児童・生徒の健康について実際の取り組みをもとに理解を深めていく。また、体づくり運動の心身への影響や科目内容としての学習指導ではカバーしきれない健康教育の取り組みについて学習していく。	
	教材・題材開発研究 (身体と表現) C [体育基礎論]	体育原理(体育哲学)分野の教材・題材を開発する。体育原理分野の先行研究を踏まえ、体育の授業実践において用いられる術語や考え方を再検討し、学問の知見を授業実践に応用する方途を明らかにする。議論では社会的・歴史的さらに哲学的な視点を提供し、受講者の思索力を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度理数教育科目	教科内容研究（科学と数学）A〔実験物理〕	理科（物理）の教科内容のうち実験物理を扱う。現代物理学の実験に関して、それを支えた歴史的背景から実験装置、実験結果の意義、その後の社会の発展に与えた影響などに関して調査・報告を行う。一方で、有名な実験に関して、簡単な実験を行う。実験結果をレポートにまとめる。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔有機化学〕	小・中・高で取り扱う有機化学について、その知識を深めるとともに、必要に応じて実験を行うことで知識を実践する。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔植物進化〕	植物進化と多様性に関する、教材・題材の現代的課題についての解説を行うとともに、それに関する学校での関連した内容のトピックについての論文紹介を行い、それを用いた教材・題材開発を行う。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔動物系統〕	理科（生物）の教科内容のうち動物系統分類を扱う。動物界の系統分類は、従来の形態や発生といった形質を重視した、いわゆる伝統的な概念が元となっていたが、主に近年の分子系統学の進展により体系が大きく刷新された。この授業ではその変遷や新たに設立された分類群に言及し、できるだけ最新の知見や課題を学ぶ。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔動物発生〕	理科（生物）の教科内容のうち発生生物学分野の基礎的な内容を理解し、現在の課題を認識する。また、関連する分野の基礎的知識や技法などについても理解する。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔気象〕	小・中・高等学校理科の学習指導要領解説及び教科書を用いて、気象分野の内容について把握する。その上で、受講者が観察や実験を含むテーマを設定し、探究的な学習を行う授業を計画する。学習内容に関する気象学的な課題について、議論する。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔天文〕	高等学校地学の天文分野に関連する内容を扱う。	
	教科内容研究（科学と数学）A〔地質〕	小学校および中学校理科における地層の学習に関して、地層の定義・成因論・観察の仕方・観察結果のまとめ方について理解するとともに、小・中学校における地層の指導方法の課題と改善方法について検討する。地層の観察の仕方と観察結果のまとめ方については実習を行う。	
	教科内容研究（科学と数学）B〔木材加工〕	技術教育における木材加工を扱う。木質系材料に関する新素材の製造技術あるいは新しい木材加工技術について取り上げ、その技術に関する将来の木材加工教育の内容について議論する。	
	教科内容研究（科学と数学）B〔金属加工〕	金属加工に関わる教材等についての研究を指導する。そのため研究背景、従来研究と提案について明確にすること、そして提案を検証する方法と検証用データの整理、さらに研究論文の執筆・発表を目指した指導をする。	
	教科内容研究（科学と数学）B〔電気〕	将来の教科内容となりうる電気の応用技術についての研究を指導する。研究背景や従来手法との差異の明確化、そして提案手法の検証方法やデータの分析を指導する。さらに、その技術に関する将来の教科内容について議論する。	
	教科内容研究（科学と数学）B〔情報〕	情報に関わる教材等についての研究を指導する。そのため研究背景、従来研究と提案について明確にすること、そして提案を検証する方法と検証用データの整理、さらに研究論文の執筆・発表を目指した指導をする。	
	教科内容研究（科学と数学）B〔栽培〕	栽培分野領域の現在の教科内容を踏まえ、ICTやアクティブラーニングを取り入れた新しい教科内容を研究することにより、次世代の教材として利用できる題材を先端的に研究開発する。	
	教科内容研究（科学と数学）C〔代数〕	算数・数学の学習内容や方法を、「代数学」の観点から先端的に研究する。	
	教科内容研究（科学と数学）C〔幾何〕	算数・数学の学習内容や方法を、「幾何学」の観点から先端的に研究するためには、数学的思考、特に幾何学的思考を行えることが必要である。そのためには、幾何学に関する深い「主体的・対話的で深い学び」の育成が必要である。課題意識に基づいた教材・題材の開発を行い、得られた結果を詳しく検討する。	
教科内容研究（科学と数学）C〔解析〕	小・中・高等学校の算数・数学を一貫した教科として捉え、児童・生徒の資質能力の育成を念頭に置き、特に解析学の学習内容を先端的に研究する。現代解析学の理論に基づいた教材の開発及び検証を行う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教科内容研究 (科学と数学) C [確率]	小・中・高等学校を見通した算数・数学教育は児童・生徒の算数・数学学習での思考・態度を育てる観点において重要であり、その背景となる数学の深い理解が必要となる。そのために、算数・数学の学習内容や方法を、「確率論」の観点から先端的に研究する。教員の算数・数学に関する「主体的・対話的で深い学び」の育成のために、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検討する。	
	教科内容研究 (科学と数学) C [応用数学]	小・中・高等学校を見通した算数・数学教育は児童・生徒の算数・数学学習での思考・態度を育てる観点において重要であり、その背景となる数学の深い理解が必要となる。そのために、算数・数学の学習内容や方法を、「応用数学」の観点から先端的に研究する。教員の算数・数学に関する「主体的・対話的で深い学び」の育成のために、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検討する。	
	教科内容研究 (科学と数学) C [数学教育]	数学教育学の諸理論 (認知論・認識論、学習論、活動論) を学び、それらを用いて、算数・数学教育に関する様々な現象を分析したり理解したりすることを通して、数学教育学の研究手法論およびその実践的応用に関する討議と演習を行う。	
特別支援教育コース科目	インクルーシブ教育の理論と実際	国際的な課題となっているインクルーシブ教育について、国内外のインクルーシブ教育の動向をふまえて、日本のインクルーシブ教育システムの現状と課題について、合理的配慮、ユニバーサルデザインのカリキュラム・授業、交流及び共同学習、障がい理解教育の観点から、演習を通して検討を加え、実践力を培う。  (58 井坂 行男・59 富永 光昭・154 今枝 史雄)	共同
	特別支援教育コーディネーター論	本科目の授業構成は、以下に示す内容を網羅することで校内のキーパーソンとしての「特別支援教育コーディネーター」としての役割を意識し、今後の特別支援教育の推進役となる人材を育成する。 1特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能についての理解と運用について 2小中学校及び高等学校の特別支援教育コーディネーターの役割と発達障がい等のある子どもへの理解と指導・支援の在り方の探求 3学校における組織体制の在り方としての「校内支援体制の構築」及び「関係機関との連携」の在り方 4様々な支援を必要とする事例に基づくアセスメントから「個別の指導計画」作成につながる方策を行う 5教育相談技能及びコンサルテーションの方法及びその応用	
	特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援	特別なニーズのある子ども、障がいのある子どもやそれ以外のニーズのある子ども (たとえば、被虐待児、不登校児など) を理解していく上で必要となる心理学の理論や技法について、障がい種別あるいは課題別に解説し、それぞれのニーズに応じた支援の実践についても心理学の観点から解説するとともに、事例検討などを通して実践的な理解を深める。  (オムニバス方式/全15回)  (20 山本 利和/4回) 特別なニーズのある子どもや視覚障がい児の心理的理解、心理的支援について考察し、教育実践に結びつける。  (60 西山 健/4回) 聴覚障がい児やその他のニーズのある子どもの心理的理解、心理的支援について考察し、教育実践に結びつける。  (116 平賀 健太郎/2回) 病弱児の心理的理解、心理的支援について考察し、教育実践に結びつける。  (145 三盃 亜美/5回) 発達障がい児やその他の障がいのある子どもの心理的理解、心理的支援について考察し、教育実践に結びつける。	オムニバス
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	特別なニーズが必要となる子どもの包括的理解のために、中枢神経系と末梢神経系、運動器と感覚器についての基礎的な知識を修得した上で、身体障がい、発達障がい、精神障がい、高次機能障がいの病理について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別なニーズのある子どもの臨床	特別なニーズのある子どもへの教育支援・生活支援などの実践にあたって、子ども一人ひとりのニーズをいかに捉え、いかに効果的な支援を行っていくかについて、病弱教育を中心としながら実際の臨床場面を想定した演習をまじえながら授業を展開することで、学校現場で求められる臨床的アプローチの知識と技能を習得する。	
	発達障がいのある子どもの理解と支援	発達障がいに関して、主に、学習障がい、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症を取り上げ、障がいの種類ごとに、定義、原因、診断評価、心理・行動特性を講義する。また、その特性に応じた指導・支援を講義・討論する。本授業を通して、発達障がいに関する基礎的知識に基づき、具体的に個々のニーズに応じた指導・支援を選択・考案できる視点を学ぶ。	
	特別支援教育の現代的課題	<p>特別支援教育をめぐる現在の教育・研究の動向について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 山本 利和／1回) 特別支援教育の動向について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(59 富永 光昭／1回) ・特別支援教育の動向</p> <p>(154 今枝 史雄／2回) 特別支援教育における現代的課題について教育学の視点から考察する。また、知的障がい教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(152 大内田 裕／1回) 特別支援教育における現代的課題について医学・臨床学の視点から考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(149 金森 裕治／1回) 視覚障がい教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(58 井坂 行男／1回) 聴覚障がい教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(150 須田 正信／3回) 肢体不自由教育、情緒障がい教育、重複障がい教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(116 平賀 健太郎／1回) 病弱教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(145 三益 亜美／2回) 発達障がい教育、言語障がい教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p> <p>(60 西山 健／2回) 障がい以外に起因するニーズに対応する教育における現代的課題について考察し、教育実践に結びつける。</p>	オムニバス
	発達支援教育実践論	特別支援教育の現状と課題を概説し、発達の観点からみた教育支援について具体的に論じる。また、特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒のアセスメントを行っていく上で必要な理論と技法について解説する。さらに、各種心理検査によるアセスメントの演習を通して実践的な技能を身につけると同時に、その結果をいかにして教育支援へと結びつけていくかについて議論する。	
	特別支援教育の教育課程と授業論	<p>特別支援教育の教育課程編成について、「特別支援学校学習指導要領」の変遷や個別の指導計画等との関連を通して、特別支援教育の教育課程の「4つの類型」等の意義と課題について講義を行う。また、特別なニーズのある子どもの発達年齢や生活年齢をふまえた教育目標（ねらい）の設定、教育内容の設定、教材・教具づくり、教師(集団)の指導性のあり方等について、授業実践例を参照しつつ特別支援教育の授業論について演習を通して検討を加える。</p> <p>(58 井坂 行男・59 富永 光昭・150 須田 正信・154 今枝 史雄)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育相談支援の理論と実際	特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒への教育相談の在り方について、講義を通じてエビデンスに基づいた支援内容を理解すると同時に、具体的事例への支援について演習を通じて検討し、教育相談を実際に行う上で必要な実践力を身につける。	
課題研究科目	実践課題研究Ⅰ	受講生に、教職大学院における1年次での学びの成果を踏まえて、自らの実践的な研究課題に対する問題意識がどのように発展してきたかを省察させる。そして、それをさらに追究させるための計画を立案させ、遂行させる。その過程において、課題解決のプロセスをPDCAサイクルに基づいて自己点検・評価させるとともに、教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化させる。それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を幼稚園・学校や地域の教育課題の解決とつなぐ意識を育てる。	
	実践課題研究Ⅱ	受講生に、実践課題研究Ⅰの成果と課題を整理させる。そして、それに基づいて、実践的な研究課題の解決のための計画を修正させ、遂行させる。その過程においても、課題追究のプロセスを、PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価させるとともに、教育委員会のスタッフ、当該課題を専門的に研究しているコミュニティ等とのコミュニケーションの中で相対化させる。これらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域の教育課題の解決とつなぐ意識をさらに育てる。	

教 員 の 氏 名 等												
(連合教職実践研究科 高度教職開発専攻)												
調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
1	専	研究科 主任/ 教授	キハラ トシユキ 木原 俊行 <平成27年4月>		博士 (教育 学)		教育課程の今日的課題 教師力と学校力 エビデンスベースの学校改革 学校に対するコンサルテーション 行政研修の体系化 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2後 2前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授 (平 19.4)	5日
2	専	教授	イエチカ サナエ 家近 早苗 <平成27年4月>		博士 (カウ セリング 科学)		生徒指導と教育相談の実践的課題 教師力と学校力 学校におけるコーディネーション 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織 的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授 (平 27.4)	5日
3	専	教授	カシワギ カズコ 柏木 賀津子 <平成27年4月>		修士 (教育 学)		学習指導の実践的展開 グローバル時代の教師 グローバルリテラシーの育成 学習開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1後 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授 (平 21.4)	5日
4	専	教授	タムラ トモコ 田村 知子 <平成30年4月>		博士(教育 学)		カリキュラム・マネジメントの理論と実 践 スクールリーダーシップの理論と実践 スクールリーダーのマネジメント チーム学校の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 30.4)	5日
5	専	教授	ミズノ ハルヒサ 水野 治久 <平成31年4月>		博士(心理 学)		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育 実践 協働的援助の理論と実践 予防的な関わりと協働的援助 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授 (平25.4)	5日
6	専	准教授	テラシマ コウスケ 寺嶋 浩介 <平成27年4月>		博士 (情報 学)		学習指導の実践的展開 教育研究方法演習 授業におけるICT活用の理論と実際 メディア・情報リテラシーの理論と実践 メディア・情報教育の企画・運営 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 4 2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授 (平 27.1)	5日
7	専	特任 准教授	ニワヤマ カズキ 庭山 和貴 <平成29年4月>		修士(心理 科学)		学校経営と学級経営の理論と実践 社会的包摂のための諸施設に関する実践 的探究 エビデンスベースの学校改革 社会環境と子どもの心身の理解 ※ 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※ 障がいや健康課題のある子どもの援助 ニーズ ※ 共生社会をめざした協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 0.8 1 0.8 0.9 2 1 1 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	特任准教 授(平29.4)	5日

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
8	専	講師	ヒライ ミユキ 平井 美幸 <平成31年4月>		修士(保健 看護)		健康教育の理解と実践 ※ 障がいや健康課題のある子どもの援助 ニーズ ※ 養護実践の理論と方法 子どもの心身の健康における予防的な関 わりと協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	休 1後 1後 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.4 0.4 2 1.6 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	講師(平 25.4)	5日
9	専他	教授	ツチャマ カズヒサ 土山 和久 <平成31年4月>		修士(教育 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(言語と文 化)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 27.4)	5日
10	専他	教授	ナルミ トモコ 成實 朋子 <平成31年4月>		修士(教育 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文化)A 〔児童文学〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 28.4)	5日
11	専他	教授	ミズノ ケイジ 水野 恵司 <平成31年4月>		博士(理 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(個人と社会)A〔防 災安全〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 15.4)	5日
12	専他	教授	ミネ アキヒデ 峯 明秀 <平成31年4月>		博士(教育 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(個人と社 会)B 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 24.4)	5日
13	専他	教授	セオ ユウキ 瀬尾 祐貴 <平成31年4月>		博士(理 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 授業研究演習(科学と数学)C〔算数・ 数学〕※ 教材・題材開発研究(科学と数学)C 〔応用数学〕 教科内容研究(科学と数学)C〔応用数 学〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 1後・2前 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 24.4)	5日
14	専他	教授	イシカワ サトコ 石川 聡子 <平成31年4月>		博士(工 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数 学)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	5日
15	専他	教授	ススキ ヤスフミ 鈴木 康文 <平成31年4月>		博士(工 学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(科学と数学)A 〔物理〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 19.11)	5日

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
16	専他	教授	ナガトミ カズユキ 永富 一之 <平成31年4月>		博士(農 学)		教育実践の研究 方法 協働的プロ ジェクト演 習 カリキュラ ム・マネジ メントの開 展 カリキュラ ムデザイン 演習(科学 と数学) B 教材・題材 開発研究(科学 と数学) B [木材加工] 教材・題材 開発研究(科学 と数学) B [技術統合] 教科内容研 究(科学と数 学) B [木材 加工] 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 2前 2後 2後 1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 1 1 1 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 24.4)	5日
17	専他	准教授	イノウエ コウイチ 井上 功一 <平成31年4月>		修士(教育 学)		協働的プロ ジェクト演 習 カリキュラ ム・マネジ メントの開 展 カリキュラ ムデザイン 演習(身体 と表現) C 教材・題材 開発研究(身 体と表現) C [球技] 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	2前 2後 1後 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 1 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	5日
18	専他	教授	スズキ マユコ 鈴木 真由子 <平成31年4月>		修士(教育 学)		教育実践の研究 方法 協働的プロ ジェクト演 習 カリキュラ ム・マネジ メントの開 展 カリキュラ ムデザイン 演習(個人 と社会) A 教材・題材 開発研究(個 人と社会) a [消費生活 と環境] ※ 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 2前 2後 2後 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 0.5 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 24.4)	5日
19	専他	教授	サトウ ケンジ 佐藤 賢司 <平成31年4月>		修士(教育 学)		教育実践の研究 方法 協働的プロ ジェクト演 習 カリキュラ ム・マネジ メントの開 展 カリキュラ ムデザイン 演習(身体 と表現) B-a 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 2前 2後 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	5日
20	専他	教授	ヤマモト トシカズ 山本 利和 <平成31年4月>		博士(文 学)		特別ニーズ 教育の理論 と実践 ※ 特別なニ ーズのある 子どもの心 理学的理 解と支援 ※ 特別支援 教育の現代 的課題 ※ 教育相談 支援の理論 と実際 基本学校実 習 III (特別 支援) 基本学校実 習 IV (特別 支援) 発展課題実 習 III (特別 支援) 発展課題実 習 IV (特別 支援) 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.5 0.7 0.1 2 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 12.4)	5日
21	専他	准教授	ウスイ トモミ 臼井 智美 <平成31年4月>		修士(教育 学)		カリキュラ ム・マネジ メントの理 論と実践 学校経営 と学級経営 の理論と 実践 教師力と 学校力 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1後 1前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 4 1.3 2 2 3 3 2 2 2	2 2 2 1 1 1 1 1	准教授(平 21.4)	5日
22	専他	准教授	ハッタ サチエ 八田 幸恵 <平成31年4月>		博士(教育 学)		教育課程編 成の今日的 課題 教師力と 学校力 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 1.3 2 2 3 3 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1	准教授(平 25.4)	5日
23	専他	准教授	フクダ アツシ 福田 敦志 <平成31年4月>		修士(教育 学)		生徒指導 と教育相談 の実践的 課題 教師力と 学校力 基本学校実 習 I 基本学校実 習 II 発展課題実 習 I 発展課題実 習 II 実践課題研 究 I 実践課題研 究 II	1前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 1.3 2 2 3 3 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1	准教授(平 22.4)	5日

調書 番号	専任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基本給 (千円)	担 当 授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年 月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
24	専他	准教授	ヨシダ シゲタカ 吉田 茂孝 <平成31年4月>		修士(教育学)		学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	5日
25	専他	准教授	ハコザキ ユウコ 箱崎 雄子 <平成31年4月>		修士(言語・文化学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B 教材・題材開発研究(言語と文化)B [小学校英語] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 27.4)	5日
26	専他	准教授	ハシモト ケンイチ 橋本 健一 <平成31年4月>		博士(哲学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文化)B [リスニング・リーディング] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	5日
27	専他	准教授	シンノ ユウスケ 真野 祐輔 <平成31年4月>		博士(教育学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数学)C 教科内容研究(科学と数学)C[数学教育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 28.4)	5日
28	専他	特任教授	タナカ リュウソウ 田中 龍三 <平成31年4月>		修士(教育学)		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現)A 授業研究演習(身体と表現)A[音楽] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2前 2後 1後 1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	特任教授 (平29.4)	5日
29	実専	教授	イトイガワ タカユキ 糸井川 孝之 <平成30年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	関西大学 教育推進 部特別任 用教授(平 30.4)	5日
30	実専	教授	ナカニシ シュウイチ 中西 修一 <平成27年4月>		大学		教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	近畿大学 教職教育 部 特任教授 (平 26.4)	5日
31	実専	教授	オカ ヒロアキ 岡 博昭 <平成27年4月>		修士(教育学)		学習指導の実践的展開 教師力と学校力 教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2後 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 4 2 2 3 3 2 2	2 1 2 1 1 1 1 1	教授(平 29.4)	5日
32	実専	教授	タナカ マキコ 田中 満公子 <平成27年4月>		大学		学校経営と学級経営の理論と実践 グローバル時代の学校像 グローバルプログラムの開発 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	8 2 2 2 2 3 3 2 2	4 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 29.4)	5日

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
33	実専	教授	モチキ テツロウ 餅木 哲郎 <平成27年4月>		大学		生徒指導と教育相談の実践的課題 学校におけるコーディネーション 校内研修の持続的発展 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	8 2 2 2 2 3 3 2 2 2	4 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 29.4)	5日
34	実専	特任 教授	ハセガワ カツヒロ 長谷川 和弘 <平成30年4月>		大学		教育課程編成の今日的課題 教師力と学校力 学校に対するコンサルテーション 学校支援のための施策展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 2後 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1	特任教授 (平30.4)	5日
35	実専	特任 教授	オカダ カズコ 岡田 和子 <平成30年4月>		大学		教師力と学校力 教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	2後 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 4 2 2 3 3 2 2	1 2 1 1 1 1 1	特任教授 (平30.4)	5日
36	実み	教授	フクナガ ミツノブ 福永 光伸 <平成29年4月>		大学		教育課程編成の今日的課題 カリキュラム・マネジメントの理論と実 践 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 4 2 2 3 3 2 2	2 2 1 1 1 1 1	教職教育 研究セン ター 教授 (平29.4)	5日
37	実み	特任 教授	ヨシカワ トシユキ 吉川 年幸 <平成31年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	教職教育 研究セン ター特任教 授(平30.4)	5日
38	実み	特任 教授	オガワ タカマサ 小川 隆正 <平成31年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	教職教育 研究セン ター特任教 授(平30.4)	5日
39	実み	教授	ササキ ヤスシ 佐々木 靖 <平成29年4月>		大学		学校安全と危機管理 スクールリーダーのマネジメント 学校組織開発 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	2後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	8 2 2 2 2 3 3 2 2	4 1 1 1 1 1 1 1	附属池田 小 校長 (平23.4)	5日
40	実み	教授	ノナカ タクオ 野中 拓夫 <平成30年4月>		修士(教 育学)		学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1	附属平野 中学校副 校長 (平28.4)	5日
41	実み	准教授	イノウエ ヒロフミ 井上 広文 <平成31年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	附属高等 学校天王 寺校舎副 校長(平 27.4)	5日
42	実み	准教授	ヒロセ アキヒロ 廣瀬 明浩 <平成31年4月>		修士(教育 学)		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	附属天王 寺中学校 副校長(平 29.4)	5日
43	実み	准教授	コイケ ミサト 小池 美里 <平成31年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	附属幼稚 園副園長 (H28.4)	5日
44	実み	講師	タナカ シンジ 田中 伸治 <平成31年4月>		大学		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	附属池田 中学校教 諭(平成 29.4)	5日

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
45	兼担	教授	オオキ アイチ 大木 愛一 <平成31年4月>		大学		教科内容開発研究(音楽) 教科内容開発研究演習(音楽) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 18.11)	—
46	兼担	教授	タナカ トシヤ 田中 俊弥 <平成31年4月>		修士(教育 学)		学習開発研究(国語) 学習開発研究演習(国語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 21.4)	—
47	兼担	准教授	タネムラ マサコ 種村 雅子 <平成31年4月>		修士(教育 学)		教科内容開発研究(理科Ⅰ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅰ) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 21.4)	—
48	兼担	教授	デノ タクヤ 出野 卓也 <平成31年4月>		博士(理 学)		教科内容開発研究(理科Ⅱ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅱ) 教科内容研究(科学と数学)A[動物発 生学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 24.4)	—
49	兼担	教授	トダ ヌウイチ 戸田 有一 <平成31年4月>		修士(教育 学)		いじめ・不登校・問題行動を示す子ども の援助ニーズ ※ 就学前の援助のための政策・システム ※ 就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1後 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 0.6 1.4 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 22.4)	—
50	兼担	教授	ヒロキ ヨシヒサ 廣木 義久 <平成31年4月>		博士(理 学)		教科内容開発研究(理科Ⅲ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅲ) 教科内容研究(科学と数学)A[地質] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—
51	兼担	教授	ベ クワンウン 裴 光雄 <平成31年4月>		修士(経済 学)		教科内容開発研究(社会) 教科内容開発研究演習(社会) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—
52	兼担	教授	マキ イクコ 牧 郁子 <平成31年4月>		博士(人間 科学)		いじめ・不登校・問題行動を示す子ども の援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 28.4)	—
53	兼担	教授	オオコウチ ヒロト 大河内 浩人 <平成31年4月>		博士(学 術)		生徒指導と教育相談の実践的課題 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	教授(平 22.4)	—
54	兼担	教授	カネミツ ヤスキ 金光 靖樹 <平成31年4月>		修士(教育 学)		授業研究演習(個人と社会)C[道徳] ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)C [道徳a] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
55	兼担	教授	シライ トシアキ 白井 利明 <平成31年4月>		博士(教育学)		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.3 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	教授(平 13.3)	—
56	兼担	教授	セトグチ マサヤ 瀬戸口 昌也 <平成31年4月>		修士(教育学)		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.3 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	—
57	兼担	教授	タカハシ ノボル 高橋 登 <平成31年4月>		博士(教育学)		教育研究方法演習 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前  1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 0.5  2 2 3 3 2 2	1 1  1 1 1 1 1 1	教授(平 17.10)	—
58	兼担	教授	イサカ ユキオ 井坂 行男 <平成31年4月>		修士(教育学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実際 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.1 2 0.1 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 23.4)	—
59	兼担	教授	トミナガ ミツアキ 富永 光昭 <平成31年4月>		修士(教育学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実際 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.1 2 0.1 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 22.4)	—
60	兼担	教授	ニシヤマ タケシ 西山 健 <平成31年4月>		修士(教育学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理 解と支援 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 発達支援教育実践論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前  1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.2 0.5  0.6 2 2 2 3 3 2 2	1 1  1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 28.4)	—
61	兼担	教授	イノウエ ヒロフミ 井上 博文 <平成31年4月>		修士(文学)		教材・題材開発研究(言語と文化)A [音声言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2  1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 14.4)	—
62	兼担	教授	スミダ マサル 住田 勝 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(言語と文化)A[国語] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 27.4)	—
63	兼担	教授	ノナミ マサタカ 野浪 正隆 <平成31年4月>		修士(教育学)		教材・題材開発研究(言語と文化)A [文字言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2  1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 14.4)	—
64	兼担	教授	ホリ ジュンイチ 堀 淳一 <平成31年4月>		修士(文学)		教材・題材開発研究(言語と文化)A [古典文学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2  1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 17.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
65	兼担	教授	カガタ テツヤ 加賀田 哲也 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(言語と文化)B[英語] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 22.4)	—
66	兼担	教授	テラダ ヒロシ 寺田 寛 <平成31年4月>		博士(文学)		教材・題材開発研究(言語と文化)B [英文法・英作文] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 27.4)	—
67	兼担	教授	ヨシダ ハルヨ 吉田 晴世 <平成31年4月>		博士(学術)		教材・題材開発研究(言語と文化)B [英語教育とICT] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 15.5)	—
68	兼担	教授	イジマ トシフミ 飯島 敏文 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(個人と社会)B[社会a] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 22.4)	—
69	兼担	教授	イワタ フミアキ 岩田 文昭 <平成31年4月>		博士(文学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[いのち教育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 16.11)	—
70	兼担	教授	クシダ シュウヤ 串田 秀也 <平成31年4月>		博士(人間・環境学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[社会学a] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 17.10)	—
71	兼担	教授	クラモト カオリ 倉本 香 <平成31年4月>		博士(哲学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[倫理] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—
72	兼担	教授	コバヤシ カズミ 小林 和美 <平成31年4月>		博士(学術)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[社会学b] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 27.4)	—
73	兼担	教授	テドリ ヨシヒロ 手取 義宏 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(個人と社会)B[社会b] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—
74	兼担	教授	マツモト ケイジロウ 松本 啓二郎 <平成31年4月>		修士(人間・環境学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[哲学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 29.4)	—
75	兼担	教授	ヤマダ シュウジ 山田 周二 <平成31年4月>		博士(環境科学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[地図] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 28.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
76	兼担	教授	ヤマチカ ヒロヨシ 山近 博義 <平成31年4月>		修士(文 学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[地 誌] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 17.10)	—
77	兼担	教授	ババ ヨシトモ 馬場 良始 <平成31年4月>		博士(理 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)C [代数] 教科内容研究(科学と数学)C[代数] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 20.8)	—
78	兼担	教授	ヤナギモト トモコ 柳本 朋子 <平成31年4月>		修士(教育 学)		授業研究演習(科学と数学)C[算数・ 数学] ※ 教材・題材開発研究(科学と数学)C [数学教育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 21.4)	—
79	兼担	教授	ウネ コウジ 畦 浩二 <平成31年4月>		博士(理 学)		授業研究演習(科学と数学)A[理科]	1後・2前	2	1	教授(平 20.4)	—
80	兼担	教授	カワムラ ミシオ 川村 三志夫 <平成31年4月>		博士(農 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)A [生物] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 21.4)	—
81	兼担	教授	カンドリ カズヒコ 神鳥 和彦 <平成31年4月>		博士(工 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)A [化学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 18.4)	—
82	兼担	教授	フクエ ジュン 福江 純 <平成31年4月>		博士(理 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)A [地学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 16.4)	—
83	兼担	教授	シノザワ カズヒコ 篠澤 一彦 <平成31年4月>		博士(情報 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)B [電気] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B[電気] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 2 2 3 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	—
84	兼担	教授	アカマツ ヨシヒサ 赤松 喜久 <平成31年4月>		修士(体育 学)		授業研究演習(身体と表現)C[体育・ 保健体育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 16.4)	—
85	兼担	教授	オオタ ヨリヤス 太田 順康 <平成31年4月>		修士(体育 学)		教材・題材開発研究(身体と表現)C [剣道] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 21.4)	—
86	兼担	教授	コワ サトル 古和 悟 <平成31年4月>		修士(体育 学)		教材・題材開発研究(身体と表現)C [器械運動] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 19.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
87	兼担	教授	テツグチ ムネヒロ 鉄口 宗弘 <平成31年4月>		博士(学 術)		教材・題材開発研究(身体と表現)C [健康・体力] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 30.4)	—
88	兼担	教授	ヒラタ クミコ 平田 久美子 <平成31年4月>		博士(医 学)		子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.4 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 27.4)	—
89	兼担	教授	イオク カナ 井奥 加奈 <平成31年4月>		博士(学 術)		教材・題材開発研究(個人と社会)A [食育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	—
90	兼担	教授	オオモト クミコ 大本 久美子 <平成31年4月>		修士(教 育学)		授業研究演習(個人と社会)A[家庭 科] 教材・題材開発研究(個人と社会)A [消費生活と環境] ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後・2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 0.3 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 29.4)	—
91	兼担	教授	ナカタ シノブ 中田 忍 <平成31年4月>		博士(学 術)		教材・題材開発研究(個人と社会)A [食と健康] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 20.8)	—
92	兼担	教授	イケダ トシヒロ 池田 利広 <平成31年4月>		修士(芸 術学)		カリキュラムデザイン演習(身体と表 現)B-b 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 25.4)	—
93	兼担	教授	カトウ カナエ 加藤 可奈衛 <平成31年4月>		修士(芸 術学)		教材・題材開発研究(身体と表現)B [芸術と異文化交流1] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	教授(平 26.4)	—
94	兼担	教授	アラサキ クニヒロ 新崎 国広 <平成31年4月>		修士(学 術)		社会環境と子どもの心身の理解 ※ 共生社会をめざした協働的援助 ※	1後 2前	0.6 0.6	1 1	教授(平 29.4)	—
95	兼担	教授	ウスダ トモコ 確田 智子 <平成31年4月>		博士(学 術)		教材・題材開発研究(個人と社会)A [消費生活と環境] ※	1・2	0.2	1	教授(平 22.4)	—
96	兼担	教授	ナガイ ユミコ 永井 由美子 <平成31年4月>		博士(医 学)		健康教育の理解と実践 ※	休	0.4	1	教授(平 24.4)	—
97	兼担	教授	フジタ ダイスケ 藤田 大輔 <平成31年4月>		博士(医 学)		学校安全と危機管理 ※	2後	4.8	4	教授(平 16.10)	—
98	兼担	教授	スズキ ゴウ 鈴木 剛 <平成31年4月>		博士(農 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)B [栽培] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B[栽培]	1・2 1・2 1・2	1 1 1	1 1 1	教授(平 26.4)	—
99	兼担	教授	フジタ オサム 藤田 修 <平成31年4月>		博士(工 学)		Eラーニング	1後	2	1	教授(平 25.4)	—
100	兼担	教授	アカキ トヨ 赤木 登代 <平成31年4月>		博士(文 学)		国際教育比較実践交流	2前	2	1	教授(平 25.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
101	兼任	教授	ワダ ヨシヒコ 和田 良彦 <平成31年4月>		大学		人権教育の課題と実践	2前	2	1	教授(平 29.4)	—
102	兼任	教授	モリ ミノル 森 実 <平成31年4月>		修士(学 術)		人権教育の課題と実践	2前	2	1	教授(平 16.4)	—
103	兼任	教授	タキノ ヨウソウ 瀧野 揚三 <平成31年4月>		修士(教育 学)		学校安全と危機管理 ※ 学校危機における援助ニーズ	2後 2前	1.6 2	4 1	教授(平 15.4)	—
104	兼任	准教授	イクマ ユウコ 生馬 裕子 <平成31年4月>		博士(学 術)		教科内容開発研究(英語) 教科内容開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	—
105	兼任	准教授	カトウ アヤコ 加藤 あや子 <平成31年4月>		大学		就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.6 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 20.4)	—
106	兼任	准教授	シンド タカユキ 宍戸 隆之 <平成31年4月>		修士(教育 学)		学習開発研究(体育) 学習開発研究演習(体育) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 25.4)	—
107	兼任	准教授	トミナガ マサル 冨永 雅 <平成31年4月>		博士(理 学)		学習開発研究(算数) 学習開発研究演習(算数) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 24.4)	—
108	兼任	准教授	ナカハシ ミホ 中橋 美穂 <平成31年4月>		修士(教育 学)		就学前の援助のための政策・システム ※ 就学前教育と福祉の協働 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.4 1.6 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 22.4)	—
109	兼任	准教授	ノダ ワタル 野田 航 <平成31年4月>		博士(心理 学)		社会環境と子どもの心身の理解 ※ 障がいや健康課題のある子どもの援助 ニーズ ※ 共生社会をめざした協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1後 1後 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.6 1.2 0.5 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	—
110	兼任	准教授	マツイ ユウ 松井 祐 <平成31年4月>		修士(教育 学)		学習開発研究(図画工作) 学習開発研究演習(図画工作) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 24.4)	—
111	兼任	准教授	ヨシノ ヒデユキ 吉野 秀幸 <平成31年4月>		修士(教育 学)		学習開発研究(音楽) 学習開発研究演習(音楽) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 25.4)	—
112	兼任	准教授	ウエダ ヒロミ 上田 裕美 <平成31年4月>		修士(教育 学)		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育 実践 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 22.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基本給 (千円)	担 当 授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年 月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
113	兼担	准教授	コバヤシ ショウタ 小林 将太 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(個人と社会)C[道徳] ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)C [道徳b] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1後・2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 30.4)	—
114	兼担	准教授	コマツ コウジ 小松 孝至 <平成31年4月>		博士(教育学)		児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.5 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 17.4)	—
115	兼担	准教授	タカハシ イチロウ 高橋 一郎 <平成31年4月>		修士(教育学)		教育研究方法演習 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1.3 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	准教授(平 9.4)	—
116	兼担	准教授	ヒラガ ケンタロウ 平賀 健太郎 <平成31年4月>		博士(心理学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理 解と支援 ※ 特別なニーズのある子どもの臨床 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習III(特別支援) 基本学校実習IV(特別支援) 発展課題実習III(特別支援) 発展課題実習IV(特別支援) 実践課題研究I 実践課題研究II	1前 1前 2後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.2 0.2 2 0.1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 22.4)	—
117	兼担	准教授	サクラザワ マコト 櫻澤 誠 <平成31年4月>		博士(文学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[歴 史] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 28.4)	—
118	兼担	准教授	ニシムラ タカヒロ 西村 貴裕 <平成31年4月>		博士(法学)		教材・題材開発研究(個人と社会)B[法 と社会] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 20.10)	—
119	兼担	准教授	オカヤス ルイ 岡安 類 <平成31年4月>		博士(理学)		教材・題材開発研究(科学と数学)C [解析] 教科内容研究(科学と数学)C[解析] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 18.4)	—
120	兼担	准教授	サダスエ ガク 貞末 岳 <平成31年4月>		博士(理学)		教材・題材開発研究(科学と数学)C [確率] 教科内容研究(科学と数学)C[確率] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 18.4)	—
121	兼担	准教授	イクタ キョウスケ 生田 享介 <平成31年4月>		博士(理学)		教科内容研究(科学と数学)A[動物系 統] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 19.11)	—
122	兼担	准教授	オカガキ ジュンコ 岡崎 純子 <平成31年4月>		修士(理学)		教科内容研究(科学と数学)A[植物進 化] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 17.10)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
123	兼担	准教授	タネダ マサツグ 種田 将嗣 <平成31年4月>		博士(理 学)		教科内容研究 (科学と数学) A [有機化 学] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	—
124	兼担	准教授	フカザワ ヌウコ 深澤 優子 <平成31年4月>		博士(理 学)		教科内容研究 (科学と数学) A [実験物 理] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 24.4)	—
125	兼担	准教授	マツモト カツラ 松本 桂 <平成31年4月>		博士(理 学)		教科内容研究 (科学と数学) A [天文] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 24.4)	—
126	兼担	准教授	ヨシモト ナオヒロ 吉本 直弘 <平成31年4月>		博士(地球 環境科学)		教科内容研究 (科学と数学) A [気象] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 17.10)	—
127	兼担	准教授	ナリタ イヂヒト 成田 一人 <平成31年4月>		博士(工 学)		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [金属加工] 教材・題材開発研究 (科学と数学) B [技術統合] 教科内容研究 (科学と数学) B [金属加 工] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 27.7)	—
128	兼担	准教授	ミンナガ ノリアキ 光永 法明 <平成31年4月>		博士(工 学)		授業研究演習 (科学と数学) B [技術] 教材・題材開発研究 (科学と数学) B [情報] 教材・題材開発研究 (科学と数学) B [技術統合] 教科内容研究 (科学と数学) B [情報] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1後・2前 1・2 1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 1 1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 23.4)	—
129	兼担	准教授	オガワ タケシ 小川 剛司 <平成31年4月>		博士(体育 科学)		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [保健学習] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 30.4)	—
130	兼担	准教授	オオミチ ノリコ 大道 乃里江 <平成31年4月>		修士(教育 学)		子どもの心身の健康における予防的な関 わりと協働的援助 ※ 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.4 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 15.4)	—
131	兼担	准教授	ハシヤ アカネ 橋弥 あかね <平成31年4月>		修士(応用 情報科学)		健康教育の理解と実践 ※ 子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	休 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.2 0.6 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 28.4)	—
132	兼担	准教授	コザキ ヤスヒロ 小崎 恭弘 <平成31年4月>		修士(臨床 教育学)		就学前教育と福祉の協働 ※ 教材・題材開発研究 (個人と社会) A [家族と保育] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II	2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.4 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年 月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
133	兼担	准教授	ヤマダ ユカコ 山田 由佳子 <平成31年4月>		修士(教育学)		教材・題材開発研究(個人と社会)A [被服と生活] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 18.4)	—
134	兼担	准教授	カネヒラ ヨシエ 兼平 佳枝 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(身体と表現)A[音楽] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 28.4)	—
135	兼担	准教授	サルヤ トシロウ 猿谷 紀郎 <平成31年4月>		Master of Music		教材・題材開発研究(身体と表現)A [作曲] 教材・題材開発研究(身体と表現)A [指揮] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 12.4)	—
136	兼担	准教授	セガワ ケンイチ 瀬川 賢一 <平成31年4月>		修士(教育学)		授業研究演習(身体と表現)B[書道] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1後・2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 22.4)	—
137	兼担	准教授	デノ フミリ 出野 文莉 <平成31年4月>		博士(人 間・環境 学)		教材・題材開発研究(身体と表現)B [書鑑賞] 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 30.4)	—
138	兼担	准教授	ワタナベ ミカ 渡邊 美香 <平成31年4月>		修士(美 術)		授業研究演習(身体と表現)B[図画工 作・美術] 教材・題材開発研究(身体と表現)B [芸術と異文化交流2] ※ 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1後・2前 1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 0.5 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	准教授(平 26.4)	—
139	兼担	准教授	ゴトウ ケンスケ 後藤 健介 <平成31年4月>		博士(工 学)		学校安全と危機管理 ※	2後	0.5	4	准教授(平 26.4)	—
140	兼担	准教授	トヨサワ ジュンコ 豊沢 純子 <平成31年4月>		博士(心理 学)		学校安全と危機管理 ※	2後	1	4	准教授(平 25.4)	—
141	兼担	准教授	エトウ リョウ 江藤 亮 <平成31年4月>		修士(デザ イン学)		教材・題材開発研究(身体と表現)B [芸術と異文化交流2] ※ 教材・題材開発研究(身体と表現)B [映像・メディア教育]	1・2 1・2	0.5 1	1 1	准教授(平 16.4)	—
142	兼担	准教授	イワキリ マサヒロ 岩切 昌宏 <平成31年4月>		大学		学校安全と危機管理 ※ メンタルヘルス課題の理解	2後 2前	1.6 2	4 1	准教授(平 15.4)	—
143	兼担	准教授	サクマ アツシ 佐久間 敦史 <平成31年4月>		修士(教育 学)		総合的学習の開発と実践	2前	2	1	准教授(平 20.4)	—
144	兼担	講師	ワタナベ ソウタ 渡邊 創太 <平成31年4月>		博士(文 学)		学習指導の実践的展開 基本学校実習I 基本学校実習II 発展課題実習I 発展課題実習II 実践課題研究I 実践課題研究II	1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	4 2 2 3 3 2 2	2 1 1 1 1 1 1	講師(平 27.4)	—

調書 番号	専任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基本給 (千円)	担 当 授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年 月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
145	兼担	講師	サンバイ アミ 三益 亜美 <平成31年4月>		博士(行動 科学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理 解と支援 ※ 発達障がいのある子どもの理解と支援 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ (特別支援) 基本学校実習Ⅳ (特別支援) 発展課題実習Ⅲ (特別支援) 発展課題実習Ⅳ (特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.1 0.6 2 0.2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	講師(平 28.4)	—
146	兼担	講師	イシカワ ヨシヒサ 石川 美久 <平成31年4月>		修士(体育 学)		教材・題材開発研究(身体と表現)C [柔道] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	講師(平 27.10)	—
147	兼担	講師	ハヤシ ヨウスケ 林 洋輔 <平成31年4月>		博士(体育 科学)		教材・題材開発研究(身体と表現)C [体育基礎論] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	講師(平 27.4)	—
148	兼担	講師	タカマ ユカリ 高間 由香里 <平成31年4月>		博士(文 学)		教材・題材開発研究(身体と表現)B [美術鑑賞] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1・2 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	講師(平 24.4)	—
149	兼担	特任 教授	カナモリ ユウジ 金森 裕治 <平成31年4月>		修士(教育 学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※	1前 1前	0.1 0.1	1 1	特任教授 (平29.4)	—
150	兼担	特任 教授	スダ マサノブ 須田 正信 <平成31年4月>		修士(学校 教育学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育コーディネーター論 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ (特別支援) 基本学校実習Ⅳ (特別支援) 発展課題実習Ⅲ (特別支援) 発展課題実習Ⅳ (特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 1前 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.4 2 0.4 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	特任教授 (平30.4)	—
151	兼担	特任 教授	タナカ ヒデノリ 田中 秀典 <平成31年4月>		博士(理 学)		教材・題材開発研究(科学と数学)C [幾何] 教科内容研究(科学と数学)C [幾何]	1・2 1・2	1 1	1 1	特任教授 (平30.4)	—
152	兼担	特任 准教授	オオウチダ ユタカ 大内田 裕 <平成31年4月>		博士(人 間・環境 学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの生理と病理 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ (特別支援) 基本学校実習Ⅳ (特別支援) 発展課題実習Ⅲ (特別支援) 発展課題実習Ⅳ (特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.1 2 0.1 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	特任准教 授(平30.4)	—
153	兼担	特任 准教授	カガ ケイコ 加賀 恵子 <平成31年4月>		博士(教育 学)		授業研究演習(個人と社会)A [家庭 科]	1後・2前	2	1	特任准教 授(平 29.4)	—
154	兼担	特任 講師	イマエダ フミオ 今枝 史雄 <平成31年4月>		修士(教育 学)		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実際 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ (特別支援) 基本学校実習Ⅳ (特別支援) 発展課題実習Ⅲ (特別支援) 発展課題実習Ⅳ (特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.2 2 0.2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	特任講師 (平30.4)	—

## 大阪教育大学 設置申請に係わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪教育大学大学院				大阪教育大学大学院				
連合教職実践研究科				連合教職実践研究科				
高度教職開発専攻	30	-	60	高度教職開発専攻	<u>150</u>	-	<u>300</u>	研究科の専攻の設置(事前伺い) 定員変更(120)
教育学研究科								
学校教育専攻	15	-	30		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
国語教育専攻	6	-	12		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
社会科教育専攻	15	-	30		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
数学教育専攻	7	-	14		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
理科教育専攻	14	-	28		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
英語教育専攻	6	-	12		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
家政教育専攻	5	-	10		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
音楽教育専攻	11	-	22		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
美術教育専攻	10	-	20		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
保健体育専攻	10	-	20		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
特別支援教育専攻	10	-	20		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
技術教育専攻	3	-	6		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
養護教育専攻	3	-	6		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
実践学校教育専攻	15	-	30		<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成31年4月学生募集停止
計	160	-	320	計	<u>150</u>	-	<u>300</u>	